

PMI日本支部

Annual Report 2015

一般社団法人 PMI日本支部

〒103-0008

東京都中央区日本橋中洲3-15 センタービル3階

TEL : 03-5847-7301

FAX : 03-3664-9833

<https://www.pmi-japan.org/>

info@pmi-japan.org



Mission of PMI

PMIのミッション

米国防総省が国防、航空宇宙など大規模プロジェクトを管理するためにマネジメント手法を体系化したのが始まりとされるプロジェクトマネジメント。その後、製造・建設・エンジニアリング・化学産業等への展開を経て、プロジェクトマネジメントを職業とする職業人団体として1969年に米国ペンシルバニア州フィラデルフィアのとある民家のダイニング・ルームから始まったのが PMI (Project Management Institute) でした。

PMI がまとめたプロジェクトマネジメントの知識体系 *PMBOK® (Project Management of Body of Knowledge)* ガイドは、1984年のプロトタイプ版を基とし初版出版は1987年。その後もボランティアの献身的な作業により4年ごとに改訂が繰り返され、現在の最新版は2012年の年末に発行された第5版となっています。

世界標準となった「プロジェクトマネジメント」は、世界中のさまざまな分野で実践されています。

Mission of PMI

PMI日本支部のミッション

Japan Chapter

PMI 東京支部は PMI の日本国内唯一の支部として1998年に設立、2009年に「一般社団法人 PMI 日本支部」と名称を変え、国内におけるプロジェクトマネジメントの普及を目的に、さまざまなステークホルダーと共に活動しています。

その「協働」は、会員ボランティアや法人スポンサーに支えられつつ、各種イベントや研究会の開催、PMI 出版書籍の日本語訳・販売等を通じて、会員の方々が自身の PM スキルの研鑽につながっています。また、プロジェクトマネジメント、プログラムマネジメント、ポートフォリオマネジメント、そして近年注目を浴びているビジネス・アナリシスなどの手法の啓蒙へと活動の質的拡大も続けています。

Contents

4	会長メッセージ
5	PMI日本支部の組織
5	組織構成
5	組織運営
6	2015年のトピックス
6	日本フォーラム2015
7	Japan Festa 2015
8	中部ランチの発足
9	翻訳・出版活動
10	主要成果
12	PMI標準
12	PMI標準類の強化
14	プロジェクトマネジメントの動向
14	世界潮流とPMI本部の戦略
16	会員向けサービス
16	個人会員制度
18	法人スポンサー・プログラム
19	行政プログラム
20	アカデミック・プログラム
22	各種セミナー
22	部会メンバー主催セミナー、ワークショップ
24	部会活動
24	首都圏中心の支部会員による活動
30	関西ランチ所属支部会員による活動
31	法人スポンサー社員による活動
33	情報発信
35	販売図書
36	決算報告
37	理事名簿
38	スポンサー一覧



2015年を振り返りますと、新興国の景気減速を受け、資本財を中心に中国、アジア向け輸出が伸び悩むなか、国内企業は良好な収益環境を維持しつつも、設備投資の拡大は限定的で慎重姿勢をやや強めました。とは言え、IoT(Internet of Things)やクルマの自動運転に象徴されるような、経済活動を支える技術革新や新規事業への取り組みは、厳しい競争の中でも絶え間なく続けられており、ひと時たりとも休む暇はありません。

こうした中での組織的・体系的・効率的な目標達成のためには、従来型の「個別プロジェクトを失敗させない」という守りの姿勢だけでは実現できず、ポートフォリオマネジメントやプログラムマネジメントを通して個々のプロジェクトを戦略や目標に整合させる攻めの取り組みが欠かせなくなっています。

PMI日本支部では、個々のプロジェクトにとどまらず、企業戦略の中でプロジェクトを捉えることを支援し、PMI本部が提供する最新の標準やレポートを会員の皆さまにより広く共有していただくべく、日本フォーラム2015、Japan FESTA 2015等の大規模イベントのほか、アジャイルやソーシャル・プロジェクト等に関わる各種セミナー、法人スポンサーさま向け連絡会などを開催してまいりました。

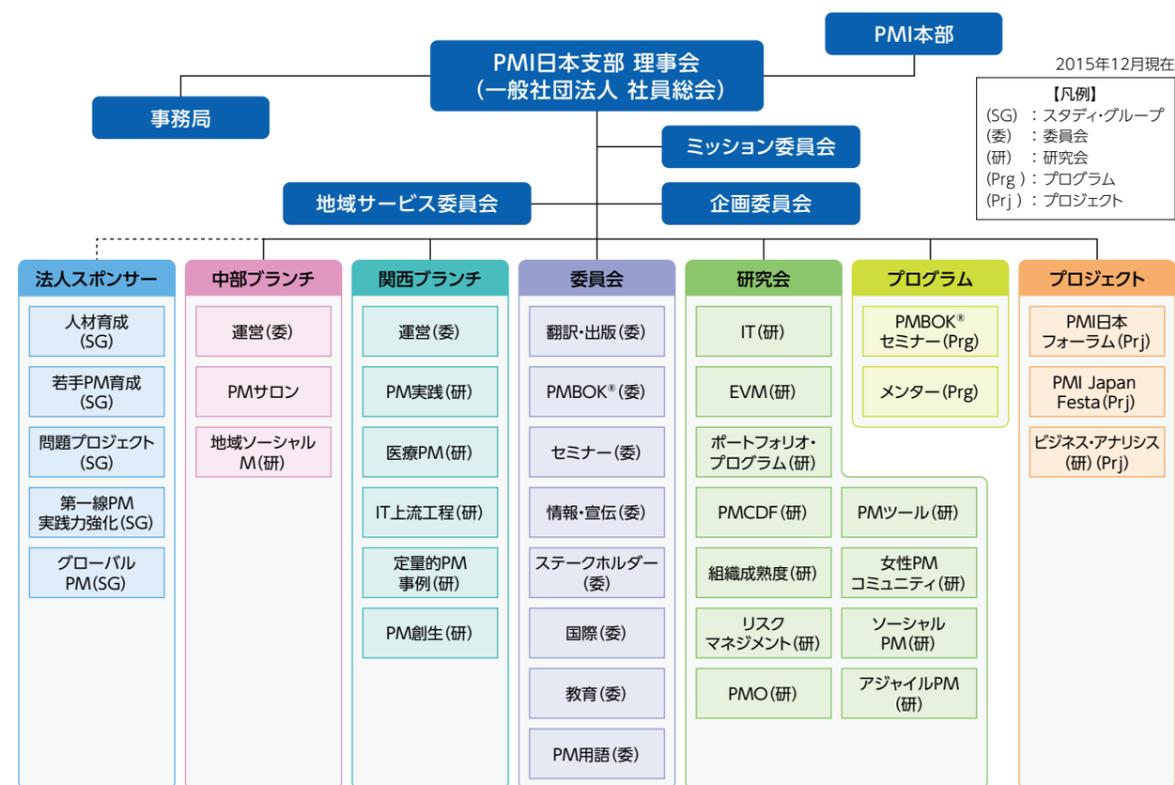
また、2015年11月には2010年の関西ブランチに次ぎ中部ブランチの設立が叶い、地域に密着した活動に一層の弾みをつけることとなりました。

さらに、支部運営面では2014年度から進めている機構改革の一環で、部会ボランティアの方々数十名と理事が一堂に会する「リーダー・ミーティング」を初めて開催し、PMI日本支部の目標や活動の方向性について共有を図りました。

『皆さまの皆さまによる皆さまのための活動』の実現に踏み出した2015年であったことを以下にご報告いたします。

奥澤 薫
PMI 日本支部 会長

組織構成



組織運営

PMI日本支部の運営は、理事会(17名の理事と2名の監事)が中心となり活動の方針を決定した後、事務局と一体となって進めています。また、ミッション委員会、企画委員会、地域サービス委員会が、理事会を補佐する形で支部の活動のあり方を提言しています。

ミッション委員会は、中期計画を立案し理事会に上程すること、各種の支部活動が支部ミッションに則しているかをモニタリングし必要に応じて是正措置を理事会に提案することが主な役割となっています。2015年度は、機構改革を実現するためにその方針・素案を策定し理事会で承認を得、組織拡大委員会、国際連携委員会、PMコミュニティ活性化委員会の3委員会の活動を本格化させました。

企画委員会は各部やプログラム、プロジェクトの運営状況を把握・調整・評価し、必要な対応策を理事会に進言

しています。企画委員会が発案しPMコミュニティ活性化委員会とボランティアメンバーの協力によって9月に実現した「PMI日本支部リーダーミーティング」では、今後の支部の方向性を探る大きな成果が得られました。また、2015年は各部会活動計画の取りまとめを大きく前倒しで実施し、例年より3ヶ月も早い12月に支部計画・暫定版予算を理事会に報告しました。さらに、支部のガバナンス体制の強化策の方向性を理事会に上程しました。

地域サービス委員会は首都圏以外の地域を対象にプロジェクトマネジメントの普及や地域活性化の支援を目的に活動しています。2015年度の大きな成果として、11月に中部ブランチの創設が叶ったほか、4月~7月には「プログラムマネジメント標準 第3版」日本語版などの発刊を記念して全国8都市でフリーセミナーを開催し、延べ400人を超える方々に受講いただきました。

日本フォーラム2015

日程 7月11日(土)、12日(日)
 場所 学術総合センター(一橋記念講堂)
 テーマ 「リーダーシップ ～幾多の困難を乗り越えて成功に導く為に～」
 後援 経済産業省、国土交通省、総務省、文部科学省、独立行政法人情報処理推進機構、
 特定非営利活動法人ITコーディネータ協会、一般財団法人先端建設技術研究所



「PMI日本フォーラム2015」を、2015年7月11日(土)、12日(日)の両日にわたり東京都千代田区学術総合センターにおいて開催しました。受け付け開始直後から多くの皆さまからお申し込みをいただき、延べ1,300名を超える方々に参加いただきました。

なお、本イベントの開催にあたっては、協賛をはじめ多様な展示、講演など20社にのぼる企業さまからスポンサー支援をいただきました。

大講堂での基調・招待講演では、国土交通省技監(当時)の徳山日出男氏による「東日本大震災の指揮と危機管理」、PMI本部理事Ricardo Triana氏による「プロジェクトマネジメントの価値獲得」と題した2つの基調講演をはじめ、12人の国内外の幅広い分野の識者から、混迷を極めた環境下でも結果を出すためにとるべき行動など、多様化するリーダーの役割について示唆に富むお話をいただきました。なお、例年どおりこれら12編の基調・招待講演については全て日英同時通訳いたしました。



基調講演

今回で4年目となるアカデミック・トラックでは、国内外19の教育機関から参加を得て、大学における関連教育プログラムの紹介、PM教育の日米比較、大学改革とプログラムマネジメント、E-Learningを使ったPM教育の裾野拡大など12のセッションを設け、各教育機関が抱える課題について相互に発表・



意見交換を行う場を提供しました。

各テーマ別トラックでは、講演時間を25分にするにより多くの講演を共有いただけるようにプログラムを組みました。過去一年間の研究成果として、日本支部の各部会や法人スポンサー・スタディー・グループから、PMIがグローバルに推進しているPMBOK®ガイド、ポートフォリオ・プログラムマネジメント、リスクマネジメント、組織的プロジェクトマネジメント成熟度モデル、プロジェクトマネジャー・コンピテンシー開発体系など多岐にわたる分野から計48セッションが実施されました。



一般トラック

また、前年に引き続き大阪市梅田(北区中崎)の会議室にリモート会場を設営し、Ustreamを介して基調・招待講演をリアルタイムで聴講いただけるコースを提供しました。前年は東京会場でのスクリーン投影資料(パワーポイント原稿)のみを放映していましたが、2015年は、熱弁をふるう講師ご自身の映像も子画面でご覧いただけるようにし、臨場感を味わっていただけるようにコンテンツの充実を図りました。



大阪会場

Japan Festa 2015

日程 11月7日(土)、8日(日)
 場所 慶應義塾大学日吉キャンパス 協生館藤原洋記念ホール
 テーマ 「Lead the Way to New Frontiers
 ～未開の地へ踏み出し、未来を創造するリーダーたち～」



2015年11月7日(土)、8日(日)の2日間にわたり、慶應義塾大学日吉キャンパス 協生館藤原洋記念ホールにて、8名の講師の方々をお招きして「PMI Japan Festa 2015」を開催しました。来場者は2日間で延べ700人近くに上り、1日目の講演終了後には交流会を同キャンパス内で開催し、盛況のうちに終了しました。



講演の様子

Festaは、通常のプロジェクトマネジメント系のセミナーではカバーされていない、より広範で重要なエリアの情報を提供することにより、参加者の皆さまに幅広い見識を得ていただく機会を提供するというコンセプト

舞台裏の醍醐味

前年のFesta2014が終了した直後の2014年12月には、セミナー委員会内にFesta2015開催プロジェクトを立ち上げ、まずは2015年で取り上げるテーマの検討を開始しました。プロジェクト・チームで議論を重ね、年が明けた1月末ごろに上述のテーマを決定し、そのテーマに合致する講師の方々を調査、ご登壇の依頼・交渉を始めました。交渉は必ずしもスムーズに行くとは限りませんが、プロジェクト・チームのメンバーはみなPMPを取得していますので、交渉はプロジェクト・マネジャーとしてのスキルが活かされる場面です。いかに素晴らしい講師を招聘できるかが、Festa開催プロジェクトの最大の醍醐味でもあります。そうして8月上旬にすべての講師が決定し、その後、開催当日に向けた運営の詳細検討・準備に入ります。当日は会場のセットアップもプロジェクト・チーム自らがボランティア・スタッフとして行い、参加者の皆さまを会場にお迎えします。参加者の皆さまからの受講完了報告等で、ボランティア・スタッ

のもと、日本支部の部会活動のひとつであるセミナー委員会が、ボランティア・スタッフとして企画・運営をしています。

Festa 2015 のテーマとして「Lead the Way to New Frontiers ～未開の地へ踏み出し、未来を創造するリーダーたち～」を掲げました。『未開の地』とは何でしょうか? Festa2015では、世の中から顧みられることがまだまだ少ない国内外の社会的課題に特にフォーカスを当て、社会的課題の解決をミッションとして自らに課し、成功モデルなどももちろんまだない、誰も踏み込んだことのない未開の地に飛び込んで活躍されている方々を講師としてお招きしました。



運営スタッフ一同

フへの励ましや労いの言葉をいただくと、私たちにとってまた次年度の開催への活力がみなぎることとなります。

参加者の皆さまから、受講完了報告を通じて寄せられた感想を以下いくつか紹介させていただきます。『当事者による生の声は具体性かつリアリティに溢れ、多くの気付きや学ぶべきものがあった』、『アントレプレナーやリーダーとしての高い志と覚悟という意味で、どれもプロジェクトマネジメントにつながるメッセージとしてとらえることができました』、『自分ももっと若い時に、このような話を聞けたら、もっとチャレンジしてやれたかと思ひ、若手にこのような話を聞かせたいと、強く感じました』

参加者の皆さまの今後の活動の糧になる新しい発見・気づきを得ていただけたとしたら、企画・運営を担当した者として大変嬉しく思います。

中部ブランチの発足

2015年11月、中部地域における日本支部の活動をさらに強化するために、中部ブランチを設立しました。世の中では、厳しい経済環境に耐える更なる生産性向上、異業種や海外からの市場参入に対抗できる競争力の強化、より広いマーケットを求めての国際化への取り組み、加えて地方の活性化、地域医療連携の必要性など、さまざまな場面で「プロジェクト」による挑戦が続いています。

このような中、我々は、「見つけよう!地域の発展と幸せにつながるプロジェクトマネジメント」のスローガンのもと、中部地域の取り組みを皆さんと共に見つけ、それらの知識・経験を発信・循環・継承する活動を通じて、プロジェクトマネジメントの大切さを世の中に広めていくことを目指しています。

2015年11月28日に開催した「中部ブランチ設立記念セミナー」では、「PMI拠点開設 ― 世界に窓を開く! さあ輝こう」と題して、このような挑戦の中で見出した中部地域におけるプロジェクトマネジメントに関する先端事例を、中部地域で活躍されている産官学のリーダーをお招きし、講演・発信いただくことができました。



中部ブランチ設立記念セミナー

名古屋大学医学部附属病院メディカルITセンター長・病院教授 医学博士 白鳥義宗 氏による「未来に向けての



ボランティア・スタッフ

医療ITのあり方」では、医療を取り巻く立ち位置を俯瞰し、産業界におけるIT技術を医療ITシステムへ取り込んでいる実践例をお話いただきました。日本や世界の超高齢化社会における医療問題の解決の方向性を感じ取ることができ、中部ブランチからも、日本・世界へ発信していくことが使命ではないかと感じました。

三重県桑名市長 伊藤徳宇 氏の名代として桑名市役所市長公室ブランド推進課 川地尚武 氏による「まちを開く〜桑名市が進める『地方創生』と『公民連携』について」では、市民の皆様の声を地域活性化に活かし、公民連携を市政に取り込み、課題解決を促進していくモデルについてお話いただきました。今後の地方創生のあり方の実践例としてとてもわかりやすく、地方活性化の先端事例として、他地域へも連携・継承して行きたいと考えています。

三菱航空機株式会社 執行役員コーポレート本部長 岩佐一志 氏からは「国産旅客機MRJを世界の空へ!」と題して講演いただきました。日本の航空機産業の復活・拡大・発展を継続していくには、技術力・ビジネススキーム確立・サービス体制構築などそれぞれの取り組みが重要で、さらにそれらを支える人材育成が要であるとのメッセージは、参加された皆様に深く響くものでした。

このように、さまざまな挑戦の現場における先端事例を発信し、地域に循環させて、継承していくことが我々の使命と考えています。

中部ブランチでは、このようなセミナーの開催以外にも、プロジェクトマネジメントに関わる実務者の情報共有・勉強会である「PMサロン」や、地域の活性化や社会的な課題の解決に向けプロジェクトマネジメントを活用・実践することを目的とした「地域ソーシャル・マネジメント研究会」の活動を行っています。

翻訳・出版活動

PMI® 標準 日本語訳

2015年もPMI日本支部会員ボランティアによる翻訳チームが日本語訳したPMI®標準書が発行され日本支部ブックストアにて販売されました。また2016年内の発行を目標に、翻訳作業を継続しているプロジェクトもあります。

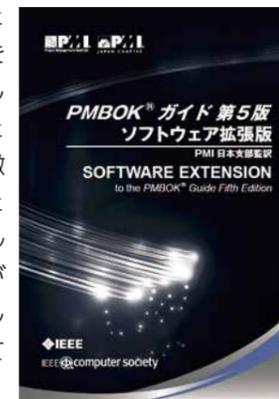
① 組織的プロジェクトマネジメント成熟度モデル (OPM3®) 基礎知識 第3版

2015年4月に「組織的プロジェクトマネジメント成熟度モデル(OPM3®)基礎知識 第3版」の販売を開始しました。OPM3®はポートフォリオ、プログラムおよびプロジェクトの関係とそれらを通して組織が戦略を達成するためのベストプラクティスを提供しています。また、組織的プロジェクトマネジメントの成熟度をアセスメントする質問集も提供しています。



② PMBOK® ガイド 第5版 ソフトウェア拡張版

2015年12月に「PMBOK®ガイド 第5版 ソフトウェア拡張版」の販売を開始しました。同標準書はこれまでプロジェクトマネジメント知識体系ガイド(PMBOK®ガイド)に含まれるプロジェクトマネジメント手法をソフトウェア開発に適用しようとした際に、ソフトウェアが無形であるという特徴を持つことや、ソフトウェア開発においてアジャイルなど適応型手法の適用が増えていることに起因しています。



③ ビジネスアナリシス実務ガイド

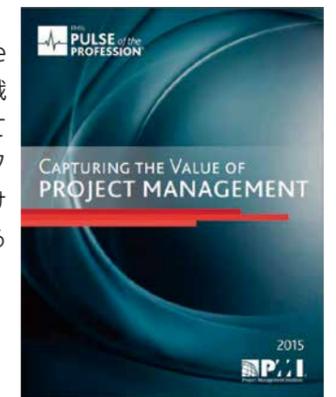
プロジェクトを成功に導くために、ビジネスアナリシスが重要である認識が高まっており、2015年PMIから実務ガイド「Business Analysis for Practitioners: A Practice Guide」が発行されました。日本支部では2016年内の発行を目標に支部会員ボランティア・チームにより翻訳作業を行っています。

PMI's PULSE of the PROFESSION®

PMIが発行するPulse of the Profession®は、組織に成功をもたらすプロジェクトマネジメント、プログラムマネジメント、ポートフォリオマネジメントや、それらを効果的に実現するための要素をテーマに採り上げてレポートしています。

2015年度は「低業績がもたらす高コスト」(The High Cost of Low Performance) および「コミュニケーションの重要性」(The Essential Role of Communications)の2編を翻訳し、日本支部ウェブサイトにて公開しました。

Pulse of the Profession®はPMIが戦略的にフォーカスしている領域や、プロジェクトマネジメントにおける最新動向などを知るために最適です。



PMIが発行する雑誌、論文

PM Network®をはじめとするPMIが発行する雑誌、論文の記事を毎月翻訳し、日本支部会員専用ページにてご紹介しています。



主要成果

支部のビジョン、戦略を実現するための改革

日本支部では、3年ごとに中期計画でビジョン、戦略を定めています。アニュアルレポート2013に掲載されている現中期計画では、「サービスの充実」や「PM認知度の向上」などの戦略目標を掲げ、これらを実現する施策を企画しました。多方面にわたる施策を計画し、社会に積極的に働きかける野心的な目標も設定しましたが、実行が思うに任せない施策も出てきました。そこで日本支部のビジョン、戦略を効果的に達成できるように、2015年は機構や運営ルールの見直しを進めました。

現在の機構は、東京支部設立(1998年)時に整備されたものです。近年、会員数は3,000人以上で推移し、年間収入も1億円を上回り、常勤の事務局スタッフを抱える組織となっています。定常業務は事務局スタッフが遂行し、日本フォーラムやJapan Festa、月例セミナー、研究会、さらにはランチ活動などが、多くの会員参加のもとで活発に行われるようになりました。

このような日本支部そのものの変化のみならず、プロジェクトマネジメントを取り巻く社会状況の変化やPMI本部の活動領域の拡大に対応していくために、日本支部の機構改革が必要であるとの認識に至りました。具体的には、戦略的なテーマに対して理事会が十分な情報収集と検討に基づいて明確な方針を打ち出すこと、支部方針に基づいて事務局等を統制し施策実行に必要なリソースを割り当てること、事務局が実施する業務と会員ボランティアに参加していただく業務を整理し、達成感が得られる活動に会員の方々の積極的な参加を募ること、などを実現できる機構・仕組みを目指していくこととしました。

そこで戦略的テーマの実現を複数の理事で担当し、方針検討や実行策を練ったうえで、理事会で機関決定して、必要なリソースを確保する仕組みを目指することにしました。この考え方に基いて2014年末に組織拡大委員会、国際連携委員会、PMコミュニティ活性化委員会を設置しました。2015年に活動が本格化したこの3委員会のミッションは以下の通りです。

- 組織拡大委員会：会員数/法人スポンサー数の増大
- 国際連携委員会：PMI本部/他支部と連携し、最先端のグローバル情報をPMI日本支部法人スポンサー/個人メンバーに提供し、PMI日本支部としての活動レベルの向上
- PMコミュニティ活性化委員会：PM関連情報を収集発信し、PMの価値を社会に訴求することによる、アクティブメンバーの増大

この3委員会と地域サービス委員会を戦略委員会と

位置づけました。戦略委員会は、理事が委員長を務め、複数の理事や部会活動実績のある会員で構成し、ミッションに沿った活動方針や戦略を検討し、支部施策の具体化を推進していきます。

一方、活動遂行にリソースを必要とする業務は、プロジェクトまたプログラムと位置づけ、必要な権限やリソースを割り当て、事務局の支援のもとで実行することにしました。この考え方に沿って、旧セミナー委員会は、セミナー・プログラムとなりました。他方、ステークホルダー委員会の一部の機能は組織拡大委員会と統合し、新たにステークホルダーマネジメント研究会を設置しました。国際委員会は、IRC研究会として継続していきます。情報宣伝委員会は、PMコミュニティ活性化委員会内のグループとして活動していきます。

さらに、企画委員会の役割、運営を見直し、戦略委員会間の一貫性確保やプロジェクト、プログラムとの調整を図る機能の充実に向けた検討を行っています。まず2016年度計画において、支部の計画や予算と部会活動との整合性を高め、部会活動の見える化と計画の共有を促進しました。

2016年度は2017年度から始まる次期中期計画を策定することとなります。日本支部のミッションを果たすべく、時代の要請に合わせてビジョンと戦略目標を改定していきますが、それを効果的に達成し、より多くの会員の皆さまが積極的に支部活動にご参加いただけるよう、引き続き日本支部の機構と運営ルールを見直ししていきます。

リーダーミーティング 2015の開催

PMI本部は、Congress等の主要なイベントの機会に合わせて、各国の支部役員を集めてLeadership Institute Meeting(LIM)を開催しています。ここでは、PMI本部の方針や動向を伝えるのみならず、支部運営やボランティア活動活性化に役立つトレーニングやワークショップを提供しています。本部スタッフや各国支部役員相互のネットワーキングの場にもなっています。

日本支部では、PMI本部のLIMに倣って2015年9月12日、13日にNTT中央研修センターでリーダーミーティングを開催し、理事、部会役員など、64名が参加しました。冒頭、奥澤会長の挨拶に続き、PMI Asia Pacific Service CenterのSoHyun Kang氏に、最近の本部の動向、方針を説明していただきました。また、上記の通り進行



中の日本支部機構改革の経緯や方針について、ミッション委員会 委員長の端山理事から報告がありました。

午後は慶応大学大学院SDM研究科の白坂成功准教授に、「システム×デザイン思考」ワークショップを開催していただきました。日本支部の課題を題材として、少人数のチームに分かれて、システム×デザイン思考のツールを実体験しながら学ぶことができ、協創の効果を実感して参加者全員の一体感が一気に高まりました。

2日目は、グループに分かれて日本支部の重要課題について議論しました。



- ① タレントトライアングルへの対応
- ② 資格の多様化にどう向き合うか
- ③ 会員数を増やすには
- ④ 若手の参加促進策

前日、教わったばかりのシステム×デザイン思考のツールを適用して活発な議論を行いました。午後には、討議結果を全グループが発表し、全員で認識を共有しました。

日本支部初の試みでしたが、理事と部会役員の距離が縮まり、課題と方向性を共有し、創造性を発揮して前向きに行動できるという確信が持てた2日間でした。



Column

リスクマネジメント研究会 足立康子

2015年9月、LIM二日目に参加しました。実は前日に一週間のニュージーランド旅行から帰ってきたばかりで、覚醒していない頭での二日目参加でした。「サブリーダーが二日目には参加できない」というのが無理してでも出席する理由でした。

でも、PMI日本支部での活動は会社の仕事より楽しい!? 私が代表を務めるリスクマネジメント研究会も、発足10年の節目の年です。

「システム×デザイン思考」の手法を使っただけのグループ討議は一日目のセミナーを受講していない私でも、リーダーの巧みなファシリテーションのお陰でメンバーと熱く語りあう事ができました。「資格の多様化」がテーマでしたが、個人の価値を高めるためにも取り組むべきだと感じています。

私もRMP取得に挑戦しようと思います。
言っちゃった (^_^)

海外のPMI コングレス等への参加

PMI本部はGlobal Congressを春にEMEAで、秋に北米で開催します。世界中の支部は、Regionに分かれており、東アジアは、香港、日本、台湾、韓国、モンゴルでRegion 9を構成しています。日本支部は、このRegion 9の各支部を中心に、東南アジアのRegion 15など、近隣の支部と交流、連携を深めています。日本フォーラムには、Region 9の支部代表を招待していますが、日本支部からも近隣支部の主要イベントに参加しています。

2015年に理事等が参加したPMI本部/海外友好支部のイベント

会議名	開催日	開催地
PMI Leadership Institute Meeting - Asia Pacific	3月27日~30日	バリ (インドネシア)
PMI South Korea Chapter Conference	5月16日~17日	ソウル (韓国)
PMI Mongolia International Conference & Workshop On Project Management	6月5日~6日	ウランバートル (モンゴル)
PMI Leadership Institute Meeting - North America	10月8日~10日	オーランド (アメリカ)
PMI China Congress	10月24日~25日	上海 (中国)
PMI Taiwan International Congress	11月21日~22日	基隆 (台湾)
PMI HK Asia Pacific Project Management Congress	12月5日	香港

これらの会議参加に際しては、日本支部の活動や日本のプロジェクトマネジメントについて発表したり、支部運営について情報交換したりしています。またLIMにおいては、PMI本部施策の説明を受けたり、ボランティア・ワークに関するトレーニングを受けたりしています。

ソウルでは、カンファレンス参加と並行して現地企業を訪問し、韓国におけるプロジェクトマネジメントの実践状況をうかがいました。これは、国際会議参加の機会を各国のPM実務者との交流に活用する取組みであり、今後も継続していく予定です。



韓国企業の訪問



香港コンgresにて



中国コンgresにて(パネリストとして端山理事登壇)

PMI 標準類の強化

2015年は、基本標準・実務標準などに関しても、幅広い分野において活発な強化が図られました。以下、PMI本部および日本支部での進展に関し、概観します。

基本標準の強化

(1) PMI本部の取組み

PMIを代表する基本標準は、長らくの間PPPM (Project/Program/Portfolio Management) とOPM3[®]の4つでしたが、『Business Analysis for Practitioners: A Practice Guide』(実務者のためのビジネスアナリシス:実務ガイド)が基本標準へ変更されることが2015年11月に発表されました。

ビジネスアナリシスの領域における新標準発行は、同時に発表されたPMI-PBAの資格認定とともに、その出版前から話題を集めてきました。基本標準への“昇格”は、PMIとしての戦略を明確に打ち出したものであり、プロジェクトマネジメントを軸に、ビジネス領域でのさらなる価値や差別化を追求するPMIの姿勢を世に示すものとなりました。

(2) 日本支部の取組み

PMIは、10番目の知識エリアとしてステークホルダー・マネジメントを加えた“PMBOK[®]ガイド第5版”を軸に基本標準 (Foundational Standards) として提供してきました。これは、組織としての目標達成や、総合的な戦略の策定・展開、さらには組織におけるプロジェクトマネジメントの成熟度へと内容を進展させるもので、プロジェクト単独の成功にとどまらず、広く組織や経営視点においても価値や差別化を引き出すフレームワークが示されています。

この流れの中で、日本支部は標準書の日本語版として、2013年に『PMBOK[®]ガイド 第5版』、2014年に『プログラムマネジメント標準 第3版』と『ポートフォリオマネジメント標準 第3版』、2015年4月には『組織的プロジェクトマネジメント成熟モデル(OPM3[®]) 第3版』を発売してきました。

加えて2015年12月には、『PMBOK[®]ガイド 第5版 ソフトウェア拡張版』の日本語版も発行しました。これは、伝統的かつ事前予測を主とするPMBOK[®]と、反復によるアプローチであるアジャイルのギャップを埋める目的で、ソフトウェア開発の領域を対象に、IEEEと共同で開発された標準書です。アジャイルについてもPMIは積極的に取り組んでおり、2010年にGlobal Congress North Americaの主要テーマの1つとなって以降、2011年には認定資格であるPMI-ACP[®]も発足、8つの認定制度の一翼を担う存在としても成長中です。ソフトウェア拡張版は、行政 (Government Extension:2006年発行)、建設 (Construction Extension:2007年発行) に次ぐ、3つ目の分野でのPMBOK[®]ガイド拡張版であり、今後の活用と普及が期待されます。



『PMI to Launch Foundational Standard in Business Analysis』 2015.11.2. PMI Press Releases
<http://www.pmi.org/About-Us/Press-Releases/PMI-to-launch-foundational-standard-in-business-analysis.aspx>

「実務者のためのビジネスアナリシス」が実務ガイドから基本標準に!(2015年11月2日発表)

実務標準/実務ガイドなどの強化

(1) PMI本部の取組み

実務ガイド (Practice Guides) は、PMI[®]標準を適用する上での支援情報を提供するもので、将来的に標準へ昇格させる可能性も備えた位置づけにあり、近年相次いで新分野での発行が進められてきました。2013年の『Managing Change in Organizations: A Practice Guide』、2014年の『Navigating Complexity: A Practice Guide』『Implementing Organizational Project Management: A Practice Guide』に続き、2015年には基本標準への昇格が発表されたBusiness Analysisが発行されました。なお、2016年1月には『Requirements Management: A Practice Guide』の発行、『Governance of Portfolios, Programs, and Projects: A Practice Guide』のダウンロードも開始されました。

シリーズ提供されている白書類も、年々充実してきており、『Pulse of the Profession[®]』では15文書、『Thought Leadership Series』では11分野にわたる文書やウェブ情報、『White Paper Library』では21の文書が、ダウンロード可能なPDF等として公開されています (2016年2月現在)。

(2) 日本支部の取組み

現在日本語版を提供中の7つの実務標準とフレームワーク (Practice Standards & Frameworks) ~アワード・バリュー・マネジメント、スケジューリング、プロジェクト見積り、プロジェクト・リスクマネジメント、プロジェクト・コンフィギュレーション・マネジメント、ワーク・ブレイクダウン・ストラクチャー(以上いずれも実務標準)、プロジェクト・マネジャー・コンピテンシー開発体系~ に関し、日本フォーラムやFesta等での展示も含め、価値訴求や普及に努めました。

また、『Pulse of the Profession[®]』等としてシリーズ提供されている白書類についても、日本語化を推進、現在計4つの白書を日本支部ホームページにて公開中です。

今後の拡張と進展

現在PMI本部では、標準発行に向け下記6つのプロジェクトが進んでいます。基本標準であるPPPMとOPMも、見直しや変更が着実に進められています。

- ・PMBOK[®] Guide —Sixth Edition
- ・The Standard for Program Management – Fourth Edition
- ・The Standard for Portfolio Management – Fourth Edition
- ・Standard for Organizational Project Management (OPM)
- ・Construction Extension to the PMBOK[®] Guide
- ・Project Manager Competency Development Framework - Third Edition

前述のとおり、基本標準はもとより実務標準/実務ガイドや白書類も充実が進んでいますが、これら一連の歩みは、次章で紹介するPMI本部の戦略に基づき、着実に取り組まれていることを物語っています。また、活動の拡張や進展も、PMIが持つ核心的な価値によりもたらされています。つまり、「ボランティア」、「コミュニティ」が前提であるPMIの活動において、「プロフェッショナルリズム」や「エンゲージメント」が遺憾なく発揮されていることによる成果であり、「プロジェクトマネジメントの影響力」を組織や社会において、より有効に活かそうとする思いが貫かれています。

日本支部では、PMI本部が発行する多くの標準書や文書の翻訳・監訳に努めていますが、PMIの根幹をなすこれら標準の提供が、会員のみならず活動の支援につながるよう、一層の工夫と努力を続けて参ります。



新標準、調査/研究成果
 ©PMI Japan Chapter, 2015. Copyright and all rights reserved.

世界潮流とPMI本部の戦略

日本ではPMP®あるいはPMBOK®の印象がまだ強いPMIですが、世界では5つの基本標準や8つの認定資格を軸に、204ヶ国に292支部をもち、71万5千人の認定者と46万人の会員を有するボランティア組織として、現在も成長を続けています。以下では、PMIの歩みを振り返るとともに、実務あるいはビジネス上の成果を得る手段としてのプロジェクトマネジメントの今後について、PMI本部の動向を踏まえて紹介します。

認定者の推移にみる世界的潮流

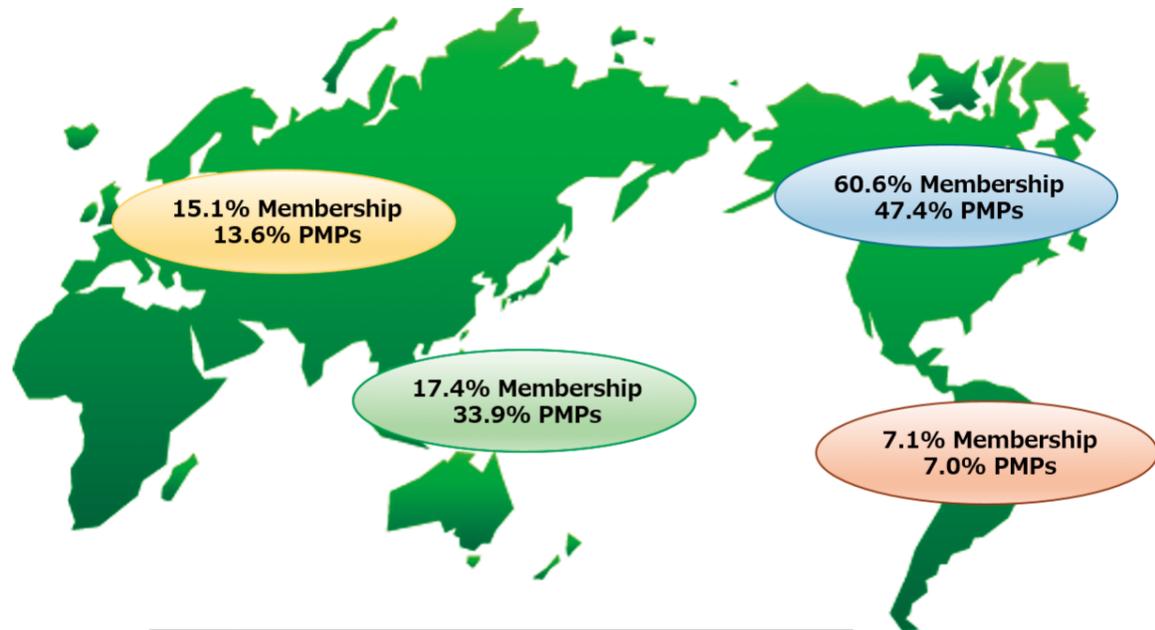
PMIの設立は1969年、最初のPMP®認定者の誕生が1984年のことでした。2015年のGlobal Congress North Americaでは、「PMP 30 YEARS STRONG」がキャッチコピーの1つとなり、設立45周年と併せて祝賀ムードに包まれました。新標準や実務ガイドの発行は一層加速度を増し、2014年に66万人だった認定者も2015年には70万人を突破、参加国も前年の194カ国から10カ国増加し、国連加盟国193カ国とそれ以外を含む、ほぼ全ての国に普及しました。

会員や認定者の分布も移り変わってきました。フィラデルフィアの一室で誕生したPMIは、PMP®発足から13年経過した1997年時点でも、北米の割合は、会員95% / PMP®認定者93%と大半を占めていました。しかし、2015年現在では会員61% / PMP®47%と北米は半数前後のシェアに留まり、ヨーロッパ・アフリカ・

アジア・オセアニアなど幅広い地域で受け入れられつつあることがわかります。

プロジェクトマネジメントの国際標準としてここまですべての国々に浸透した標準は他に例がなく、71万5千人の認定者数も含め、全世界で圧倒的な支持を得て今日を迎えています。「PMP®認定を持つプロジェクトマネジャーは非認定者に比して20%以上多くの収入を得ている」—これはPMIが全世界で行った調査結果を371頁に及び報告書にまとめ、2015年10月にプレス発表した際のタイトルです。実務やビジネスにおいては、実際に成果を得る手段や能力としてのプロジェクトマネジメントが最重要視されます。PMP®資格を有するPMの高収入取得は、PMP®認定に伴う取組みやPMBOK®の活用が、現実に価値や効果を生んでいることを示すものとなっています。

PMI会員、PMP®有資格者の地域分布 (2015年8月)



会員:467,171 / 認定者:715,044 / 支部:292 204カ国
(PMI LIM2015 10月8日 General Session での速報値)

PMI本部の戦略と動向

2015年は、PMIの今後を担う戦略の面でも、明快な方針展開がありました。全世界の支部/ボランティアリーダー向けに10月に北米で開催された Leadership Institute Meetingでは、前年のPMOシンポジウムにおけるマイケル・ポーターの基調講演を引用しつつ、PMIがめざす今後の姿が語られました。“Bestであることを競うのは、ライバルと同次元で戦うに過ぎない点で得策でなく、ユニークであろうとすることが重要”との方向性が冒頭で述べられ、カプランの戦略ピラミッドに沿って、PMIのストラテジーが段階を踏んで一つひとつ紹介されました。

特に留意すべきは、2015年にフォーカス分野が明確に述べられた点で、① Strategic Initiative Management (SIM) ② Talent Management ③ PMO ④ Young Generation ⑤ Portfolio Management ⑥ Requirements Management ⑦ Organizational Agility ⑧ Benefits Realization ~が示されました。また、同時に、メンテナンス・モードに移行する分野として、Change Management、Complexity、Methodologyも紹介されました。日本ではまだまだ今後の感もあるこれら領域について、早々に位置づけを変更し、果敢に新分野を開拓しようとする先進性と原動力には、改めてPMIの力強さや積極性、頼もしさや将来性が表れています。

- 1 Strategic Initiative Management (SIM)
- 2 Talent Management
- 3 PMO
- 4 Young Generation
- 5 Portfolio Management
- 6 Requirements Management
- 7 Organization Agility
- 8 Benefits Realization

- Move to Maintenance Mode:
- Change Management
 - Complexity
 - Methodology

フォーカス分野



戦略ピラミッド

タレント・トライアングル

新たに導入されたタレント・トライアングルも、PMP®資格の維持・更新等に必要なPDUを適切に獲得していく観点で、会員や認定者の一人ひとりに直接的に影響を与える方針展開となっています。タレント・トライアングルは、才能や資質を3つの側面 ~ ① Technical Project Management ② Strategic and Business Management ③ Leadership ~で整理し、いずれの要素も万遍なく備えることにより、より高い次元での力の発揮を期待するものとなっています。今後は研修やセミナーなど、PDUが発行される全ての場面で、いずれの要素を達成するものか、発行側による事前の明示とそれを意識した受講が必要となります。

この変更がもたらす効果を評価するには、しばらく時間を要することになりますが、少なくともこの3要素が示す内容は、実務やビジネスで実際に成果を得る手段や能力の増強が志向されていることは確かです。実践や成功を重視するPMIの価値観とゴールが、ここにおいても明示されていると言えるでしょう。



タレント・トライアングル

個人会員制度

▶ 会員制度のメリット

プロジェクトマネジメントに関して体系化されたアプローチと方法論・事例に関する知識を深く理解するために、PMP®の取得・維持は極めて有効です。日本支部のメンバーになることで、そのための強力な支援が受けられます。

◆プロジェクトマネジメント実務者の方には

他社プロジェクト・マネジャーとの交流、PMI関連資格保持・更新のための情報収集のほか、ベストプラクティスやプロジェクトマネジメントの近況・見通し、PMI関連の研究状況の把握などにより、プロジェクトマネジメントに関する自己啓発につながり、実務能力を向上させる機会となります。

◆経営者の方には

プロジェクト・マネジャーの育成、ベストプラクティスの研究結果や方法論の実践により、経営や組織の能力を高める機会となります。

◆一般の方には

今話題のあらゆる分野のプロジェクトマネジメントについて、専門的な知識・情報取得のチャンスとなります。

▶ 日本支部会員の特典

① セミナー受講費の割引

日本支部主催のフォーラム、Festa、月例セミナー、PMP®受験対策講座など各種セミナー（下表および次ページの図を参照）に割引価格で参加いただけます。また、PDU、PMP®受験研修時間、ITC実践力ポイントなどの受講証明書を発行します（フリーセミナーの一部には発行対象外のものがあります）。

規模	セミナー名称	PDU	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
大規模 (数百人)	日本フォーラム (2日間)	12			★	
	Japan Festa (2日間)	9~11				★
中規模 (100人)	月例セミナー (2時間/回)	2	★	★	★	★
	各種フリーセミナー (3~4時間/回)	3~4			★	★
小規模 (10~20人)	PMBOK®セミナー (2日間)	14		適宜		
	PMO、Risk などW/S (1日)	6~7		適宜		

② 各種委員会、研究会などのへの参加

各種の委員会、研究会等に参加することで、プロジェクトマネジメントに関わる技術研鑽、異業種の方々との情報共有・交流 (skypeも活用) しながらPDUも取得

できます。また、これらの活動の成果は毎年夏に開催するフォーラムで発表されています。2015年は26部会から46編の発表がありました。

【研究会】

- ① IT、② EVM、③ ポートフォリオ・プログラム、④ PMCDF、⑤ 組織成熟度、⑥ リスク・マネジメント、⑦ PMO、⑧ PMツール、⑨ 女性PMコミュニティ、⑩ ソーシャルPM、⑪ アジャイルPM

【委員会】

- ① 翻訳・出版、② PMBOK®, ③ セミナー、④ 情報・宣伝、⑤ ステークホルダー、⑥ 国際、⑦ 教育、⑧ PM用語

【関西ブランチ】

- ① 運営委員会、② PM実践研究会、③ 医療PM研究会、④ IT上流工程研究会、⑤ 定量的PM事例研究会、⑥ PM創生研究会

【中部ブランチ】

- ① 運営委員会、② PMサロン、③ 地域ソーシャル・マネジメント研究会

③ プロジェクトマネジメント関連書籍の割引購入

ホームページを通じてPMBOK®ガイドやプログラムマネジメント標準などのプロジェクトマネジメント関連書籍を会員価格で購入いただけます。日本支部が扱う書籍の中で最も販売数が多いPMBOK®ガイド第5版(日本語版)は、総販売冊数の約3割が会員価格でお買い求めいただいています。



④ 翻訳記事やPMBOK®テンプレート集などの閲覧、ダウンロード

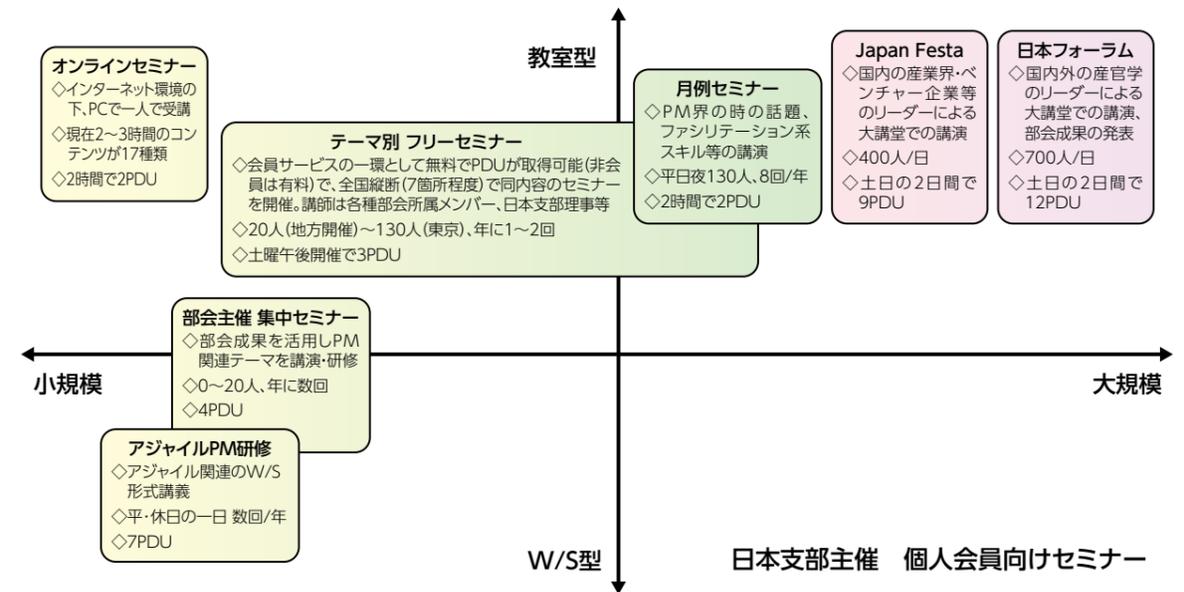
会員専用ホームページで、PMI本部が発行しているPM Network®やPMI Today®などの翻訳記事を参照できるほか、PMBOK®委員会やPMCDF研究会、リスク・マネジメント研究会など部会メンバーが作成した実務向けのテンプレートをダウンロードしてご利用いただけます。また、日本支部における過去の翻訳プロジェクトの成果を取り入れてガイドラインとしてとりまとめた日本語表記法を参照いただけます。

▶ 入会手続き

日本支部に入会いただくには、まずPMI本部に入会いただく必要があります。PMI本部ウェブサイトからオンラインサービス登録を行ってください。日本支部会員登録も同サイトから行えます。決済にはクレジットカードがご利用いただけます。

なお、入会時の総必要額189ドル(約22,000円)は、例えば日本フォーラムに2日間通しでご参加いただいた場合の会員価格と一般価格の差額に相当します。日本支部会員としてのさまざまな特典を活用しつつ、プロジェクトマネジメント・スキルの研鑽をお積みください。

PMI 本部		PMI 日本支部	合計
入会費	年会費	年会費	
10ドル (入会時のみ)	129ドル	50ドル	●入会時は189ドル ●以降1年ごとに179ドル



【参考】日本支部会員数、PMI関連資格保有者数の推移

日本国内の推移 (各年12月末現在)	年度			
	2012	2013	2014	2015
PMI日本支部会員	3,050	3,166	3,146	3,227
CAPM®資格保有者	71	58	56	85
PMP®資格保有者	29,596	31,799	31,590	32,491
PfMP®資格保有者	-	-	0	1
PgMP®資格保有者	1	2	4	3
PMI-RMP®資格保有者	3	6	4	6
PMI-SP®資格保有者	2	5	4	4
PMI-PBA®資格保有者	-	-	0	2
PMI-ACP®資格保有者	3	7	12	16

【参考】全世界での会員数、PMI関連資格保有者数の推移

世界の推移 (各年12月末現在)	年度			
	2012	2013	2014	2015
PMI会員	387,529	439,689	454,032	478,493
CAPM®資格保有者	20,157	24,450	27,168	30,474
PMP®資格保有者	510,434	594,603	639,237	694,534
PfMP®資格保有者	-	-	183	286
PgMP®資格保有者	834	995	1,161	1,483
PMI-RMP®資格保有者	1,805	2,584	3,003	3,443
PMI-SP®資格保有者	809	1,090	1,268	1,448
PMI-PBA®資格保有者	-	-	216	569
PMI-ACP®資格保有者	2,063	4,641	7,282	10,351

法人スポンサー・プログラム

法人スポンサー・プログラムとは

法人スポンサー・プログラムとは、組織でのプロジェクトマネジメントの普及、向上に関心を持ち、日本支部のミッションに賛同しその活動を支援して下さる企業に対し提供するプログラムです。

法人スポンサー・プログラムのメリット

- ◆日本では数少ない、プロジェクトマネジメントご担当者の意見交換、相互研鑽および人脈拡充の場で、年に計5回、100人規模の情報交換・発表会を実施しています。
- ◆社員の方々は、プロジェクトマネジメントに関する研鑽の場となる勉強会(法人スポンサー スタディー・グループ)に参加できます。
- ◆メルマガにより法人スポンサー・プログラムや日本支部主催イベントのご案内をさしあげます。また、日本支部主催イベントへの参加や日本支部で取り扱う書籍の購入に際し特別割引が受けられます。
- ◆法人スポンサーとして貴社ロゴ、貴社名を日本支部のホームページに掲載しますので、プロジェクトマネジメントに熱心な企業として社会的にアピールしていただけます。

法人スポンサー・プログラム実績

(1) 法人スポンサー連絡会^{※1}、PM部門長セミナー^{※2}

法人スポンサーさまの社員のみが参加できるもので、参加者には無料でPDU受講証明書を発給します。法人スポンサー連絡会は四半期ごと、PM部門長セミナーは毎年8月に開催しており、毎回40~50社、80~100名の参加をいただいています。

※1 PMおよびPM人材育成部門の方々に、PM界の最新情報をお伝えします。
 ※2 PM部門長の方々に、部署をリードする際に必要な最新の知識をお伝えします。



法人スポンサー連絡会

- ◆3月度連絡会 特集テーマ:アジャイルプロジェクトマネジメント
- ◆6月度連絡会 特集テーマ:ケースメソッドによるPM人材育成
- ◆9月度連絡会 特集テーマ:PMI標準
- ◆12月度連絡会 特集テーマ:グローバルビジネス推進とプロジェクトマネジメント
- ◆8月 PM部門長セミナー 特集テーマ:企業における人材育成



法人スポンサー連絡会

(2) 法人スポンサー・スタディー・グループ

スタディー・グループは、法人スポンサーさまの社員のみで構成する勉強会で、各企業が抱える課題について意見交換し調査研究を行っています。2015年は30社を超える企業から延べ50名超の方々に参画いただき、以下の5グループが活動しました。

◆人材育成スタディー・グループ

PMCDF(プロジェクト・マネジャー・コンピテンシー開発体系)の人格コンピテンシーに着目し、実践で役立つ成果物を作成することを目的に、2015年度は「人格コンピテンシー向上の指南書(仮称)」の企画構想を検討しました。

◆若手PM育成スタディー・グループ

若手PM育成を目的に、3つの観点(①PM候補者選定ポイントと方法、②PMのモチベーション維持の方法、③若手PMを育成する効果的方法)に分け検討を順次実施しています。第一テーマは2014年度に検討終了し2015年度は第2テーマについて検討しました。

◆問題プロジェクト・スタディー・グループ

問題プロジェクトの予兆を如何にとらえるかについて研究しています。具体的には第一フェーズで作成した予兆リストの枠組みを利用し、各社が直面した問題プロジェクトに当てはめ、予兆リストの有効性を共有すると同時に、新たな視点での活用範囲を検討しました。

◆第一線PM実践力強化・スタディー・グループ

2015年度は、各自が議論により気づきを得ることを重要視し、歴史、格言からプロジェクトマネジメントの極意を議論し、得られる気づきを検討・整理しました。

◆グローバルPMスタディー・グループ

グローバル新製品開発等におけるイノベーションを実行するためのプロジェクトマネジメント・アプローチを題材に、「Reinventing project management (Shenhar, A. J., & Dvir, D. (2007))」を輪読しています。2015年度は、先端研究と事例の認知度を高めることを目標に活動しました。

また、「成果と今後の方針を語り合う合宿」も活動に彩を添えています。



人材育成スタディー・グループの合宿

(3) メンタープログラムⅡ

◆メンタープログラムⅡとは

メンタープログラムⅡは、法人スポンサーさま限定プログラムで、当該企業さまが持つプロジェクトマネジメントに関わるノウハウ継承、プロジェクト実践力

強化、トラブル対応力強化等のための教育をグループメンタリング方式で実現するものです。メンター、メンティーともPDUを取得できるメリットもあります。

◆対象領域

具体的には、プロジェクトマネジメントを遂行するための必要な関連知識、PMBOK®知識エリアおよびPMプロセス、PMIが設定したプロジェクトマネジメントに係る各種標準などを対象とした教育プログラムを組みます。

◆カスタマイズされた教育プログラム

企画段階で日本支部が支援させていただきながら、当該企業さまの環境(知識、経験、対象部門等)に合ったプログラムを作成することになります。また、場所・日程・時間帯についてもご都合に合わせて設計出来ます。

◆2015年度の実績

2015年度は、大手鉄鋼メーカー、大手シンクタンク、証券系・情報通信系ITベンダーなど、8社/11件のご利用をいただきました。

これらは、海外大型プラントプロジェクト担当PMのコンピテンシー向上、過去の成功・失敗プロジェクトを振り返りPMBOK®と比較し課題や対応策をグループで討議しLessons learnedとしてまとめる、ステークホルダー知識エリアの理解と深堀および自社ステークホルダーへの適用、PMのリーダーシップ・コミュニケーションについて各自のブレークスルーを図る、PMBOK®第5版を学習し今後注力するエリアおよび自社P&P(Policy & Procedure)へ反映するなどといった内容で実施しました。

行政プログラム

日本支部では、全国より多くの自治体でプロジェクトマネジメントの導入が進み、施策の円滑な実現や地域の活性化につながることを目指して、支援を始めています。

2014年、行政プログラムの第一号として三重県桑名市にご登録いただき、その後はプロジェクトマネジメントの勉強会等を通じて行政への反映の試行、人的つながりの拡大が進みつつあります。

今は、富山県氷見市、滋賀県大津市、京都府京都市にも働きかけを進めています。



桑名市による発表(中部ランチ設立記念セミナー)

アカデミック・プログラム

日本のPM/PMP®の急速な高齢化への対応として、若手PM育成のパイプラインの仕組み作り貢献すべく、大学を中心に大学院大学、高等専門学校、中学・高等学校を対象としたアカデミック・プログラムを設定しました。

●企業からの新人研修の紹介、日本で唯一のPM学科の例、大学改革とプログラムマネジメント、E-Learningを使ったPM教育の裾野拡大など、テーマ毎のセッション: 4件

▶ アカデミック・スポンサー登録の拡充

2015年末時点で大学院、大学、高等専門学校に亘る29校、33部門の登録を得ています。情報工学でのIT開発部門に留まらず、社会情報学や経済科学部、ビジネス・スクール、さらにはGeneric Skillの主要要素として産学連携センターでの学部横断的な取り組みなど、幅広い部門、あるいは一年生から大学院生まで幅広い層を対象としたPM教育への取り組みが伺えます。

▶ フォーラムにおけるアカデミック・トラックの設置

日本フォーラムは国内最大級のプロジェクトマネジメントのイベントですが、この4年間はアカデミック・トラックを設け、プロジェクトマネジメントを含む実践的教育やジェネリック・スキル向上に向けての各教育機関での実施状況、抱える課題等について相互に発表・意見交換を行う場を提供しています。

同時に世界的な動向やプロジェクトマネジメント教育の認定制度の紹介なども行っています。

2015年度は以下の12セッションを実施しました。

- 大学における関連教育プログラムの紹介: 6件
- グローバル・セッションとして「PM教育の日米比較」、「PMI アカデミック・プログラムの紹介」: 2件

▶ 2015GAC会議の開催

PMI GAC (Global Accreditation Center) が実施している国際的なプロジェクトマネジメント教育の質保証のシステムを広く検討いただくための会議を開催しました。

一昨年に開催した二回目のアカデミック・ワークショップのフォローアップとしてウェスタンカロライナ大学のアンナトムラ教授を迎えて、4大学のケースを互いに紹介し、GAC Accreditationに向かって為すべき事柄を話し合いました。国際化、質保証というキーワードに対するプログラムとして、今後も注力していく所存です。



2015GAC会議



広島市立大学での講義

▶ 大学におけるPM教育支援

広島市立大学情報科学部/広島修道大学経済科学部での共同研修について(株)三菱総合研究所様と共同で開発したシラバスは、グローバルにまでテーマを広げ、実施支援は4年目となりました。このコースでは「企業活動の変化とプロジェクトマネジメント」、「コンピテンシー・モデルの考え方」などPM教育の範囲を広げた方向性を指導しました。

▶ E-Learningパッケージの開発

PM教育の裾野拡大をねらって E-Learning パッケージ「PM始めの一步」を開発しました。

これは15分を3コマとし、プロジェクト憲章の策定、プロジェクト計画書の作成、日々の進捗管理と完了評価までをカバーする汎用パッケージです。

本パッケージの適用は、まず、早稲田大学基幹理工学部において、知識伝達が主体であった講義形式のものから、学生自身による自発的学習が主体のものに内容を切り替えていく試みの一環としてのPBL型コースから始まりました。これは、「ケーススタディ: プログラム電卓の開発」の中でグループワークの進め方を理解するためにPMの基本を学生が学べる教材となっています。引き続きPBLコース「データ構造とアルゴリズム」でも使用され、延べ3年・6回の使用実績を重ねました。同パッケージは広島修道大学の1年生を対象とする新規の「PM入門」コースでも教材として活用されました。

その他にも、院生が修士論文の研究活動計画を立案・実施する際のツールとしての活用、自習コースの教材

としての適用など利用範囲の広がりが期待されます。

「PM始めの一步」の深堀に加えて、「PM次の一步」としてコスト・品質・変更管理を設けた15分・5巻のパッケージを開発しました。大学院生を対象としたTA (Teaching Assistant)の育成や、学部でも希望者に対するアドバンスコースとしての位置づけです。これは既に早稲田大学で使用しています。

▶ IPA産学連携推進センターとの協業

IPA産学交流フォーラム、講座実施FD(教育現場での人材育成力向上)支援活動の位置づけで、プロジェクトマネジメントFDチームリーダーを務めており、現在も継続中です。

Column

広島修道大学経済科学部 教授 脇谷直子

広島修道大学経済科学部では、2012年からアカデミック・スポンサーとしてプログラムを利用させていただいています。



そのきっかけは、日本支部の関係者に、本学が開講する科目への講師を派遣していただいたことでした。その後も教材コンテンツ提供などでご協力いただいています。

年に一度行われるフォーラムのアカデミック・トラックへの参加や、充実したPM関連書籍の購入などを通じて、PM教育に携わる教員のみならず、学生が学ぶ機会の拡大につながっています。



日本フォーラム アカデミック・トラック

部会メンバー主催セミナー、ワークショップ

月例セミナー

セミナー委員会メンバーが講師選定・折衝・当日運営の全てを務めるセミナーで、現役PMをはじめPMを目指す方々に、スキルアップの機会を提供しています。

サイバーセキュリティの最新動向、グローバルビジネス展開時に日本のPMに求められるスキル、クレーム発生時のハンドリング術など、2015年も多岐にわたるテーマを採りあげ各界の専門家に登壇いただきました。

2015年は8回開催し、参加申込者数は延べ990人、一回あたり124人にも上ります。年に4回以上参加いただく「常連」が6割を占める定番セミナーとなっており、受講後のアンケート調査では90%の方々に高評価をいただいています。



セミナーの様子

オンライン・セミナー

プロジェクトマネジメントのスキルアップを目指す多くの方々に、セミナー開催日程やセミナー会場などの制約を受けないスキルアップ手段と機会を提供するもので、ご自宅PCやモバイル機器で受講いただくことを想定したプログラムです。

内容は月例セミナーを中心としたものですが、3年目を迎えた2015年は全国8箇所で開催した「BA、OPM3[®]、アジャイルPM紹介セミナー」など6コンテンツを付加して計18コンテンツとなり、多くのPMの方々に有効にご利用いただいています。

オンライン・セミナーのお知らせ	
第1回	オンラインセミナー「PMのスキルアップのためのPMの役割と責任」 PMの役割と責任を学ぶためのセミナーです。 PMの役割と責任を学ぶためのセミナーです。 PMの役割と責任を学ぶためのセミナーです。
第2回	オンラインセミナー「PMのスキルアップのためのPMの役割と責任」 PMの役割と責任を学ぶためのセミナーです。 PMの役割と責任を学ぶためのセミナーです。 PMの役割と責任を学ぶためのセミナーです。
第3回	オンラインセミナー「PMのスキルアップのためのPMの役割と責任」 PMの役割と責任を学ぶためのセミナーです。 PMの役割と責任を学ぶためのセミナーです。 PMの役割と責任を学ぶためのセミナーです。
第4回	オンラインセミナー「PMのスキルアップのためのPMの役割と責任」 PMの役割と責任を学ぶためのセミナーです。 PMの役割と責任を学ぶためのセミナーです。 PMの役割と責任を学ぶためのセミナーです。
第5回	オンラインセミナー「PMのスキルアップのためのPMの役割と責任」 PMの役割と責任を学ぶためのセミナーです。 PMの役割と責任を学ぶためのセミナーです。 PMの役割と責任を学ぶためのセミナーです。
第6回	オンラインセミナー「PMのスキルアップのためのPMの役割と責任」 PMの役割と責任を学ぶためのセミナーです。 PMの役割と責任を学ぶためのセミナーです。 PMの役割と責任を学ぶためのセミナーです。

アジャイルプロジェクトマネジメント研修

2015年はアジャイルプロジェクトマネジメント研

修を10コース開催し、延べ200名にのぼる方々に受講いただきました。

「アジャイルプロジェクトマネジメントの基礎」は、アジャイルについての知識が全く無い初心者の方にも、「アジャイルとは何か」から「企業レベルでのアジャイル導入」までの概要を学んでいただけるコースです。

「アジャイルプロジェクトスタートアップ」コースでは、プロジェクトの企画・立上げから、見積り・計画までより実践的な内容をワークショップ中心で学んでいただきました。



PMBOK[®] 第5版対応セミナー

多くの皆様にPMBOK[®]ガイドの内容を知っていただくため、PMBOK[®]セミナー委員会のメンバーが講師となり、「PMBOK[®]第5版対応セミナー」を実施しました。2015年は5月(東京)、9月(大阪)、12月(東京)の3回開催しました。

本セミナーはPMBOK[®]ガイドの全体像を理解したい方、PMBOK[®]ガイドをプロジェクトマネジメントのツールとして活用したい方、PMBOK[®]ガイドを通してプロジェクトマネジメントの枠組みを理解したい方、プロジェクトマネジメントの最先端を学びたい方にお薦めする内容になっており、PMBOK[®]ガイドを十分に理解し知識を吸収していただくために、2日間コースとなっています。

メンバーが作成した「PMBOK[®]セミナー 副読本第5版」を元に、「PMBOK[®]ガイド 第5版日本語版」を随時参照しながらそのすべての章を丁寧に解説しています。



部会メンバー主催セミナー、ワークショップ

リスク・マネジメント研究会セミナー

リスク・マネジメント研究会主催で、2015年11月にセミナーを開催しました。

これは、実務でリスク・マネジメントを効果的に実施するために実践的な技術を身につけたい、組織への導入を図りたい、リスクの分析を行いたい方を対象としたものです。

本セミナーでは、PMBOK[®]に基づき、リスク・マネジメント計画、リスク特定、定性的リスク分析、定量的リスク分析、リスク対応計画、リスクの監視・コントロールなど、各リスク・マネジメントプロセスを説明した後、それらをどう実践すれば良いかについて、解説しています。

参加者の方々に、一連の流れの中で仮想的にリスク・マネジメントの実践を経験し、体験的に学習することができるよう、IT系のケース・シナリオを例に採りあげワークショップ形式のグループ演習を行いました。



組織的プロジェクトマネジメント成熟度モデル(OPM3[®])セミナー

「組織的プロジェクトマネジメント成熟度モデル(OPM3[®])基礎知識 第3版 日本語版」の出版を記念し



て組織成熟度研究会メンバーが講師を務めるセミナーを2015年4月に開催しました。

OPM3[®]では組織におけるポートフォリオマネジメント(PFM)、プログラムマネジメント(PgM)、およびプロジェクトマネジメント(PM)活動の成熟度モデルを提供するとともに、ガバナンス、コンピテンシー・マネジメントやプロジェクト・マネジャー向けトレーニングといった組織イネーブラーに関するベストプラクティスも提供しています。

同セミナーでは、OPM3[®]の成熟度モデルを、PFM、PgM、およびPMの各標準との関連性も交えながら、わかりやすく解説しました。

PMOセミナー&ワークショップ

PMO研究会の成果を還元する形で、セミナー&ワークショップを2015年10月に開催しました。

ここではPMOを「プロジェクト推進組織において、プロジェクトを外から支援あるいはコントロールする組織」と位置付けています。

PMO研究会の最近の知見に基づき、PMO組織のあり方、重要な機能は何かをご説明した後、受講者の方々にIT発注者向け、IT受注者向け、製造業向けの4つのテーマから1つを選択していただき、グループ検討会を行う形式をとっています。

受講者の方々からは、「PMOの機能・形態について理解が深まった」、「他社、他業種のトレンド、PMOへの思いや考え方が共有できた」、「PMOの体系的な理解と将来像が共有できた」などの評価をいただくほか、受講後にPMO研究会に加入される方もおいでになるなど、好評をいただいています。



首都圏中心の支部会員による活動

翻訳・出版委員会

PMIが発行する実務標準や定期刊行物の翻訳、出版を通じて、日本支部会員や国内PMコミュニティへの貢献を活動目的としています。2015年度は、PMI標準2冊の日本語版発刊を主な目標に掲げて活動しました。

まず、年初の1月末に箱根で一泊の合宿を行い、用語統一等について話し合い、難解パラグラフの和訳解析演習、年間活動計画の検討等を行いました。

当委員会監修の下、所期の目的であった「OPM3® 第3版」、「PMBOK®第5版ソフトウェア拡張版」をそれぞれ4月、12月に発刊しました。また、日本語版プロジェクト活動として、BA研究会主催のBA実践ガイドに当委員会から4名が参加しています。これを含め「プロジェクト実務者のためのビジネス・アナリシス実務ガイド」、「組織におけるチェンジ・マネジメント2」としてフォーラムにて発表しました。

さらに、PMI発行のPM Network®、PMI白書の翻訳記事、ブラジルに在住している委員の活動報告エッセーを日本支部ホームページに掲載しました。

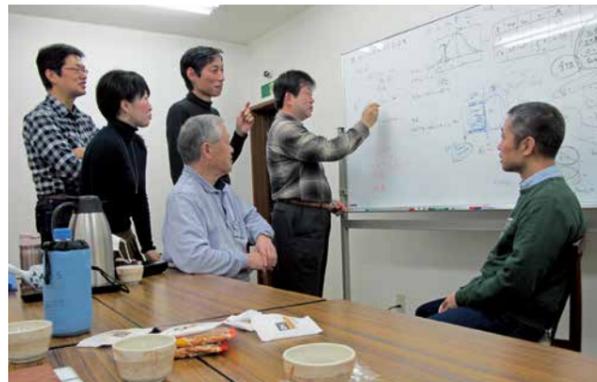


1月の合宿の様子

PMBOK®委員会

PMBOK®ガイドの研究調査、関連情報の収集・発信を目的としています。2015年はPMBOK®ガイド第5版の正しい理解の普及・推進、会員への対応ツールの提供を目標に活動しました。

年初の1月末に合宿を行い、PMBOK®の普及についてディスカッションしました。その後、待望の「PMBOK®ガイド第5版 対応テンプレート」を3月にリリースしました。また、「PMBOK®ガイド第5版 紹介シリーズ」として日本



2015年1月合宿時の様子

支部ホームページに以下のテーマの解説を執筆・掲載しました。①ISO21500について ②ステークホルダー・マネジメント ③ナレッジ・マネジメント ④アジャイル型ライフサイクル ⑤プログラム、ポートフォリオ ⑥スコープ・マネジメント ⑦タイム・マネジメント

一方、委員会所属メンバーの勉強会として「現場の問題や悩みをぶつけ合いながら、先輩や専門家のお話を気楽に聴くこと」を目的に、「PM-ZEN(禅)」を6回開催しました。

International Relations Committee (IRC), 国際委員会

Expatriate and Bilingual PM's interacting place-Congenial environment!

在日外国人と日本人PM達の、共通の関心を持った人々のための交流の場となることを目的に活動しています。年間目標は、国際プロジェクトの研究、月次会での招待者による講演実施、プロジェクトマネジメントに有用なオンライン会議・情報共有ツールの研究です。

Different nationalities, diverse cultural and work background, bilingual meeting environment - That is IRC!

異なる国籍、多様な文化、職業を持つ人々が英語によるミーティングを実施し、IRCとして意義ある活動が継続できました。

We conducted opinion poll for international PMs in Japan and presented findings at PMI Japan Forum in July 2015. We held 3 successful guest presentations this year. Our online meeting experiences improved after shifting to Skype. Based on feedback, we fine-tuned and standardized meeting preparation.

在日国際PMの意識調査・分析を実施し、7月の日本フォーラムにて英語による報告講演を行いました。10回の月次ミーティングの中で、内外の講演者による部内講演会を3回開催しました。海外講演者によるリアルタイムでのプレゼンテーション・質疑応答は以後も継続予定です。なお、オンラインミーティングはSkypeへ移行し、会議開催時の必要設備と手順を定型化し、安定・高品質で実施できるよう改善しました。



One of IRC meetings!

首都圏中心の支部会員による活動

PM用語委員会

2015年に日本語版で出版されるPMI標準書の用語を取り込んだ「PM用語集約集」を改訂し、日本支部会員向けサイトに公開を行うことを目的に活動しました。

2015年に出版された日本語版PMI標準書の中で次の3冊の用語を取り込んだPM用語集約集第5.1版を発行しました。「ポートフォリオマネジメント標準 第3版」、「プログラムマネジメント標準 第3版」、「OPM3®(組織的プロジェクトマネジメント成熟度モデル) 第3版」。

前版より新規に1,330個の用語および11の略語を追加し、合計2,880個の用語、201個の用語を集約しました。出典による用語の変遷情報も備考に記載しています。PM用語集約集は日本支部会員向けに公開されていますのでぜひ活用ください。

セミナー委員会

セミナーを通じて全国のPMにスキルアップのための機会を提供するとともに、PM相互の人的ネットワークの形成を図ることを目的としています。

月例セミナーは平日19時から2時間、渋谷駅から徒歩5分の会場に固定し2015年は計8回開催しました。延べ852名に聴講いただきましたが、4回以上参加される「常連」が6割に達し、全てに参加された方が7人もおいでになる人気の定番セミナーとなっています。

また、11月7日・8日の2日間にわたり慶應義塾大学日吉キャンパスで開催したJapan Festaは2月から本格的に企画・準備を開始。数十人の候補者の中から最終的に8人の演者に承諾いただくまでに半年以上の時間をかけ粘り強く交渉を続けました。当日は延べ689人もの方々に参加いただき、セミナー委員会メンバーによる運営要領も含め、高い評価を得ることができました。



4月度 月例セミナーの様子

Column



セミナー委員会 副委員長
(現セミナープログラム 副代表) 鬼束孝則

『仕事では知り合えない人脈を作ることで人生をより豊かにしよう!』それがきっかけで12年前に始めたセミナー委員会の活動は今や自分でも想像していなかった素晴らしい領域へ自らをいざなってくれています。

『等身大の自分』で出来る日本支部のボランティア活動を通じて、仕事やプライベートとは全く別の世界の講師と接することをきっかけに、その方が持つコミュニティと繋がり、その先で活動する方々が所属する団体に招かれ……と、どんどん広がる世界。これからどんな世界が私を待っているのか?! 高揚する自分の気持ちは新たな世界への追い風を感じさせてくれます。

ステークホルダー委員会

支部個人会員や法人スポンサーと良好な関係を維持するための施策立案をミッションとしています。2015年度は、個人会員向けサービス向上施策の提案を行いました。

個人会員の満足度向上を図るため、個人会員を新規会員・継続会員・シニアなどのセグメントに分け、それぞれに対する実効性の高い施策を提案しました。

また、法人スポンサーアンケート結果を分析し、法人スポンサー連絡会にてフィードバックを行いました。

研究活動として、ステークホルダー・マネジメント手法や考慮点を検討し、日本フォーラムで発表を行いました。

2016年度は、「ステークホルダー研究会」に名称変更し、ステークホルダー・マネジメントを効果的に実施するための管理手法やツールに関する研究を行います。



策検討会議の様子

教育委員会

教育分野におけるプロジェクトマネジメントの普及と啓発を目的とし、大学・大学院へのPM講義実施を主テーマに、約40名のメンバーにより活動しています。グローバル化対応のための英語によるPM講義などにも取り組んでいます。

大学院/学部/短期大学に対するPM講義を計6校に対して実施したほか、日本フォーラムではアカデミック・トラックや一般部会セッションで講演を行いました。

また、工学教育研究講演会が2014年の広島に続き2015年度は福岡で開催され、「PM&PBL」オーガナイズセッションには過去最大の40件の論文投稿がありましたが、教育委員会からは4件発表しました。

啓発活動として、Gifter LABO フェスタ(発達障害を抱える子どもへの完全オーダーメイド授業の開発・実施)へ授業を提供しました。



教育委員会の会議の様子

首都圏中心の支部会員による活動

IT研究会

IT業界におけるプロジェクトマネジメントに関するベスト・プラクティスを研究しメンバーの研鑽を図るとともに情報共有・交換を行う有志の集まりです。2015年度はITプロジェクト現場における人間系課題に対するベスト・プラクティスの深掘をテーマに活動しました。

人間系課題に対するベスト・プラクティスの研究は2014年度からの継続テーマです。これはプロジェクト現場で日々発生するトラブルの多くがヒトに起因しているというメンバーの共通認識に基づいています。プロジェクト現場での事例収集と、PMBOK®ガイドやその他の文献を調査し議論を深めました。

成果物としてPMBOK®のステークホルダー特定のアウトプットであるステークホルダー登録簿を補完する「ステークホルダー分析表」を考案しました。これは、お客様、プロジェクト・メンバー、所属組織といったステークホルダーとのコミュニケーションをより円滑に行うことを目的としたものです。今後、実際のプロジェクト現場で試用し、より有用なものにしていく予定です。

EVM研究会

EVM (Earned Value Management) 研究会は、国内のEVM事例研究や海外の最新EVMの論文研究を行い、毎年成果を公開しています。2015年度は、ES (Earned Schedule) について研究成果を発表することを目標として活動しました。

EVMとESに関する最新論文の輪講やWalter H. Lipke著書「Earned Schedule」翻訳版の解説などを通して、EVM実践におけるさまざまな問題を解決するための情報を収集し、議論しました。

フォーラムでは、『時間軸によるEVMパフォーマンス分析手法の紹介と動向』を、定量的PM事例研究WG(関西ブランチ研究会)との合同で『ソフトウェア開発での品質予測の事例紹介その2』を、それぞれ発表しました。さらに、日本支部の会員用HPで『事例から学ぶ品質予測の実践ガイド』(特許取得済み)を公開しました。



EVM最新トレンドWGの成果発表(PMI日本フォーラム2015)

ポートフォリオ/プログラムマネジメント研究会

「経営課題を解決するPM知の普及」の実現に貢献することを目的とし、2015年度はPFM/PGMの本質の理解と、普及のための課題を探ることを目標に活動しました。

日本支部主催で全国8地域(計9回)において行われた「ポートフォリオ/プログラムマネジメント標準第3版紹介セミナー」の全てで、研究会メンバーが講師を務めたほか、日本フォーラムでは特にプログラムマネジメントにフォーカスし、計6件の発表を行いました。これらを通して得られたインサイトにより、本質の理解の重要性や、実践的ガイドの必要性を議論する機運が生まれ、中期的取組みを行うことが合意できました。

プログラムマネジメントに関しては、富士通(株)さまとの合同勉強会によりその本質を再認識できたと同時に、BABOK・v3を題材に最新のビジネスアナリシスについて継続的に研究することでプログラムマネジメントとの関係を探ることができました。



毎月1回の定例会(2015年10月度)

組織的プロジェクトマネジメント研究会

当研究会では、OPM3®を中心にさまざまな組織的プロジェクトマネジメント(OPM)の方法論を研究し、ベストプラクティスの普及・展開を目指して活動しています。

2015年度は前年から取り組んでいた、OPM3®第3版の翻訳作業が完了し、4月に日本語版が出版されました。それに伴い、出版記念セミナー&ワークショップを4月に行いました。

また、7月のフォーラムではOPM3®の解説に加え、PMIから発行されたOPMの実装に関するPractice Guideの紹介や、ISOやIPMA等のPMI以外の標準について発表を行いました。

研究活動としては、OPMガバナンスやコンピテンシー・マネジメント等に関するベストプラクティスをより深く理解すべく、熱い議論を重ねました。



OPM3® 第3版 日本語版出版記念セミナー

首都圏中心の支部会員による活動

リスク・マネジメント研究会

日本におけるリスク・マネジメント(RM)の普及と、レベルアップに貢献することを目的とし、2015年度は個人研究をベースとした活動を基本としながら、RMの普及のために月例会での討議成果を積極的に外部発表すること、支部の他部会との積極的な協力を目標としました。

月例会では必ずテーマを定めて90分程度討議し、要約をグループリーダが発表する形式をとり、それを次年度の研究発表へつなげています。

日本フォーラムでは「RMユニアデックスのテラリング事例」、「パーソナル・プロジェクトにおけるRMへのアプローチ」、「リスクモデルとドライバー・アプローチによるRMの有効性の考察」の3編を発表しました。

また、4月から7月にかけて「ポートフォリオ&プログラムマネジメント第3版出版記念フリーセミナー」とコラボし全国8箇所で行われた「RM紹介セミナー」で講師を務めるとともに、恒例のRM研究会主催ワークショップセミナーを11月に開催し、いずれも高評価をいただきました。

さらに、RM研究会発足10周年を記念し、過去の日本フォーラムでの全発表サマリーを読み解くなど、過去の蓄積の振り返りも行っています。



月例会での討議の様子

PMO研究会

PMOに関する研究と研究成果の情報発信を行うことを目的に活動しています。2015年も7月のPMI日本フォーラムと10月のワークショップの2大イベントに注力しました。

定例の全体会を12回、3WGの会合を計40回開催し、事例研究、メンバー間の知識の共有、外部講師招請による勉強会、日本フォーラム/ワークショップ準備などを通じて、研究会メンバーの知見を向上させました。

日本フォーラムでは、「IT発注側企業におけるPMO立上げの有効性」、「戦略的PMO・実践編」、「グローバルIT企業の日本法人におけるPMOの事例研究」を発表するとともに、10月には恒例の「PMO研究会 セミナー&ワークショップ」を開催し、参加者から高評価を得ました。本セミナーを通じて参加者とも交流でき、PMO研究会自身の成長にもつながっています。



2015年10月のワークショップの様子

PMツール研究会

PMのツールと技法を調査し、メンバーの実践的な知見を基にツールの特性やより高度な活用法を研究しています。2015年度は新たなPMツールの発見を目標に活動しました。

PMツールの活用方法を習熟することで実践的なスキルアップにつなげることをテーマに日本フォーラムで発表しました。

その後は、新しいPMツールの発見をテーマに、マーケティングや経営の分野で注目されている「ビジネスモデル・キャンパス」をプロジェクトに活用する方法について、メンバーの知見を基に実践的な観点から討議を行いました。本討議の成果は2016年度の日本フォーラムで発表する予定です。また、「PMツール」の知見を広く収集する活動として、PM NETWORKで紹介された「The Project Management Tool Kit/Tom Kendrick (著)」をテキストとする洋書講読会も継続して実施しています。

PMCDF 実践研究会

知識やスキルだけではなくPMコンピテンシー向上手法の研究を行っています。2015年度は、PMコンピテンシー概念の普及と講師の育成方法にフォーカスした研究活動を行いました。

PMの育成において、知識やスキル以上に重要なPMコンピテンシーの概念や重要性の普及のため、入門者向けコンテンツとしてコンピテンシー解説本のベースを作成しました。

また、PMコンピテンシーの向上を目的とした「ショートケースによるワークショップ手法」の研究成果を踏まえ、それを社内でも実施する際の大きな課題である講師の育成方法について、研究を進めました。

さらに、PMI本部で作成中のPMCDF第3版に対し、レビュアーとして参画し貢献しています。



新年会の様子

首都圏中心の支部会員による活動

女性PMコミュニティ WomenOBF

プロジェクトの現場経験をもつ女性たちが、自らの経験を踏まえてプライベートとバランスをとりながら長く活動するために必要なことを振り返ることを目的としたコミュニティです。後続の女性たちに結果を形として残し、より元気に生き生きとやりがいを感じながら仕事を続けていくことができる社会づくりの一助となることを目標に活動しています。

2015年度は、4つのWGに分かれて活動しました。なお、WG1:「As-Is 現状把握」は2013年までで活動満了しました。WG2:「男女の強みを生かし、強いチームをつくる」、WG3:「女性と彼女を取り巻く若手男性の意識調査」(2015年度はこれまで少なかった若手の意見を収集し、中堅の意見と比較しました)、WG 4:「男性も女性も活躍できるプロジェクト現場とは?」、WG 5:「PM自身の働き方、モチベーション維持」。

7月の日本フォーラムでは各WGから以下の発表を行いました。

「男性も女性も活躍できるプロジェクト現場とは?」(昨年に続き、講話セッション1枠に続き、双方向セッション2枠を実施)、「女性PMと彼女を取り巻く男性とのコミュニケーションのポイント」、「男女の強みをいかし、強いチームをつくる」、「あなたの得意分野は何ですか」。

さらに、WG3ではアンケート調査を実施しその成果を日本支部ホームページに公開するとともに、WG2・4・5の合同活動としてPMの働き方、モチベーションについて意見交換を行いました。



双方向セッションの様子

ソーシャルPM研究会

東日本大震災の災害復興支援プログラム活動で得た教訓から、プログラムマネジメント標準をベースに、より広い社会課題を解決することを目的に活動しています。

研究会活動の成果を日本フォーラムで3件発表しました。また、当該成果をはじめソーシャルPM関連イベントなどを収集し「ソーシャルPMニュース」として、月1回ペースで日本支部ホームページに掲載したほか、Facebook上で「ソーシャルPMコミュニティ」を立ち上げ関連情報の発信を行いました。

さらに、「情報支援レスキュー隊(IT DART)の活動内容」

と「デザイン思考を活用したソーシャルPMフレームワーク」紹介セミナーを2月に開催したほか、ソーシャルPMフレームワークを具体化して6回シリーズのワークショップを企画し、その第1回目を12月5日に「ソーシャル・デザイン思考実践」として開催しました。



「ソーシャル・デザイン思考実践」ワークショップ

アジャイルプロジェクトマネジメント研究会

アジャイルプロジェクトマネジメントの普及と情報発信を目的とし、「アジャイルPMの意識調査」を外イベントや日本フォーラムなどで報告すること等を目標に活動しています。

毎月、読書会やPMI-ACP®受験を目指した勉強会でスキルアップにも努めていますが、2月には「アジャイルプロジェクトマネジメントの実態」に関するアンケート調査を実施しました。その結果とアジャイルPM普及への提言を7月の日本フォーラムで発表するとともに、11月には日本支部ウェブサイト上で資料を公開しました。

4月には「Agile Japan 2015」の特別セッションで日本支部やアジャイルPM研究会の活動を紹介しました。また、研究会メンバーが各方面の事例セッションで発表したり、小冊子に執筆したりと、情報を発信しています。

さらに、日本支部法人スポンサー連絡会や法人スポンサー企業さまの社内セミナーでアジャイルプロジェクトの事例紹介を行いました。



Agile Japan 2015での講演

首都圏中心の支部会員による活動

PMBOK® セミナープログラム

PMBOK® ガイドを学習する機会を提供することを目的とし、PMBOK® 第5版対応セミナーを開催しています。また、講座品質を維持・改善するため、テキストの改定とセミナー・インストラクターの養成を図っています。

セミナープログラムの活動として2015年に完成させたオリジナルテキストを使用し、年3回の PMBOK® 第5版対応セミナーを開催しました(東京:5月、12月、大阪:9月)。

セミナー品質を確保するため、入念なりハーサルを行い、説明内容に合わせたテキストの見直しと個々のメンバーのインストラクション能力の伸長を図っています。

なお、2015年の大阪でのセミナーは、初めて関西メンバーのみで講師を務め、開催・運営することができました。

また、セミナープログラムの活動を紹介するため、日本フォーラムで発表を行いました。



2015年5月東京開催 PMBOK® 第5版対応セミナーの様子

ビジネスアナリシス研究会プロジェクト

PMIが発行している「Business Analysis for Practitioners: A Practice Guide」を研究し、ガイドの日本語訳やセミナーの実施を通じて、プロジェクトのために必要なビジネスアナリシス活動に関する理解を広めることを目標に活動しました。

2015年4月に新規研究会プロジェクトとして立ち上げ、36名のメンバーが集まりました。2015年度は、「Business Analysis for Practitioners: A Practice Guide」について、輪読による研究・翻訳、紹介資料の作成(セミナーに利用できる資料作成を含む)を元に、関連セミナーの準備を実施し、2016年当初の研究会への移行を目指して活動しました。

第1回目のセミナーは2016年2月に実施します。

翻訳作業は、翻訳・出版委員会との共同作業で、順調に進んでいます。2016年度中にガイドの日本語版を出版する予定です。

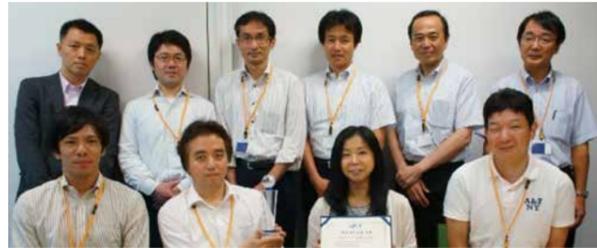
関西支部所属支部会員による活動

関西支部運営委員会

2015年度は関西支部の各部会の発展、外部発信に關して支援を行い、部会メンバーと運営委員会メンバーが一丸となって関西支部を盛り立てていくこととしました。

梅田のグランフロント・ナレッジサロンを拠点とし、関西支部の運営を実施しています。支部の5つの研究会の選任メンバーと運営委員が協力して、関西支部を動かしています。

夏の日本フォーラムに向けて、各研究会の成果を集約して関西支部にてリハーサルを行います。毎年、切磋琢磨した発表に質疑が途絶えることがありません。また、12月に関西で実施した各研究会の成果発表会には、日本支部会員以外の方々にも参加・聴講いただきました。また、プロジェクトマネジメント関連のワークなどを通して、一緒に活動する新たな仲間も増えてきています。



関西支部運営委員会メンバー

PM実践研究会

実践研究によるプロジェクト成功率向上への貢献を目的として活動を行っています。2015年度はプロジェクト・マネジャーのコンピテンシーの特定を目標に活動しました。

「組織行動のマネジメント(書籍)」の勉強会を実施し、組織行動学の知見をプロジェクトマネジメントの実践に応用できると考えられる項目を抽出することができました。

3件の実践事例から、プロジェクトを成功に導いたプロジェクト・マネジャーのコンピテンシーの特定を試みました。この内容について、関西支部発表会で報告しました。

「組織行動のマネジメント」の中から、「モチベーション」をテーマとした「PMワールド・カフェ」を企画・開催しました。参加者へのアンケート結果からは、モチベーションについて多くの気づきを与えることができたこと、有効な交流の場になったことが確認できました。参加者からの評価も高く、今後も継続していきたいと考えています。



「PMワールド・カフェ」での全体共有の様子

PM創生研究会

「日本の風土に合ったプロジェクトマネジメントを創造し、プロジェクトマネジメントの発展に寄与する」というミッションで毎年活動しています。

2015年度は先に挙げたミッションを達成すべく、ワーキンググループでPMI Talent Triangleを掘り下げながら、日本における次世代PMを創造する研究活動を行いました。

また、社会貢献としてプロボノ・プロジェクトに参加することで、PM育成と実践力を高めるための活動を行いました。

主な活動の成果としては、5月のEMEAグローバルコンgresで「五感を使ったプロジェクトマネジメント」をテーマに講演しました。また、7月の日本フォーラムでは、EMEA講演のリメイクに加えて「プロジェクトを成功に導く日本的リーダーシップ」をテーマに講演しました。



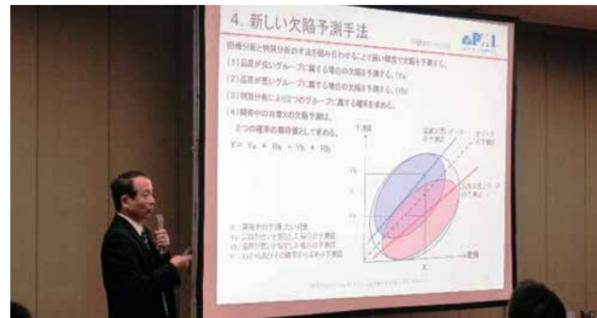
秋合宿(有馬温泉)での記念撮影

定量的プロジェクトマネジメント事例研究会

定量的データをプロジェクトマネジメントに活用するノウハウを収集する活動とCCPMの普及活動を行っています。2015年度は品質予測のノウハウ公開を目標に活動しました。

定量的PM事例研究WGでは、EVM研究会との合同で、『ソフトウェア開発での品質予測の事例紹介その2』を日本フォーラムにおいて発表しました。また日本支部の会員用HPで『事例から学ぶ品質予測の実践ガイド』(特許取得済み)を公開しました。

また、CCPM研究WGでは、CCPMの仕組みや効果を体験できるワークショップへの参加を通じてCCPMのプロセス内での過不足を調査しました。現時点ではほぼ全てのプロセスをカバーしていますが、CCPMの管理を回すためのマネジメントに関するワークショップが不足しており今後強化が必要であることが分かりました。



日本フォーラムでの定量的PM事例研究WGの成果発表

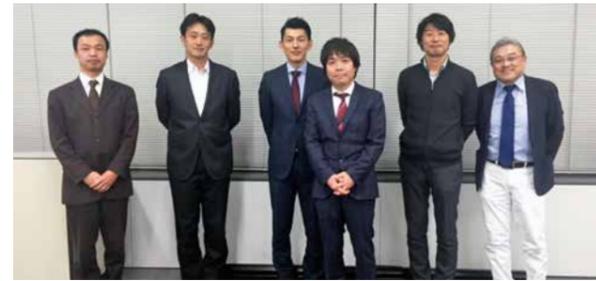
関西支部所属支部会員による活動

IT上流工程研究会

ITプロジェクトで真の成功を達成するための提言と実践を目的とし、2015年は価値指向のプロジェクトマネジメント・アプローチを提言することを目標に活動しました。

日本フォーラムにおいて、プロジェクトに真の価値をもたらすIT人材として「ビジネスPMO」という役割を提言しました。また、PMI Talent Triangleと、本研究会で提言する協調型プロジェクトマネジメントの考え方を統合し、次世代プロジェクト・マネジャーの姿を描くことに取り組みました。特に、プロジェクト・マネジャーと、ビジネスアナリシス、アーキテクティング・スキルを有する専門職人材との協調プロセスを研究しました。

これらの取組みにより、今後のさらなる学際的な研究、提言に向けての足がかりを築くことができました。



定例会での集合写真

法人スポンサー社員による活動

人材育成スタディ・グループ

PMCDF(プロジェクト・マネジャー・コンピテンシー開発体系)の人格コンピテンシーに着目し、実践で役立つ成果物を作成することを目的に活動しています。2015年度は、「指南書(仮称)」の企画構想を検討しました。

過去の成果物である副読本とチェックシートで、「PMCDFの理解」と「人格コンピテンシーの現状把握」が可能となります。

2015年度は、人格コンピテンシー向上に役立つ成果物をめざし、向上プロセスと向上策を整理し、「人格コンピテンシー向上の指南書(仮称)」作成に向けて企画構想をまとめました。



SG定例会の様子

医療プロジェクトマネジメント研究会

多様な医療プロジェクトのそれぞれに適した、医療業界にふさわしいプロジェクトマネジメントの形を研究することを目的としています。

2015年度は医療機関向けトレーニング・プログラムの開発および治験プロジェクトの特徴を明らかにし、テキストを出版することを目標として活動しました。

医療機関向けトレーニング・プログラムについては、シナリオ作成およびパイロット・スタディーを実施し、フォーラムにて開発状況を報告したほか、広島医療情報技師会にて講演を実施しました。

治験プロジェクトについては、治験プロジェクトの特徴を明らかにし、研究成果を日本フォーラムにて発表しました。さらに、事例検討として、医療機器導入プロジェクトを取り上げ、関西支部での年末の成果発表会にて紹介しました。



日本フォーラムでの発表風景

若手PM育成スタディ・グループ

「若手PM育成」を目的に、3つの観点(小テーマ)に分けて順次検討を実施しています。2015年度は第2テーマ「PMのモチベーション維持の方法」を検討・整理することを目標に活動しました。

「PMのモチベーション維持の方法」は最終整理中ですが、「PMのモチベーション維持・向上行動表」、「PMのモチベーション維持・向上行動規範(ステークホルダー別)」を2016年に公開予定です。

成果物は「現場で使えること」を前提に検討を進めていますが、「若手PM」だけではなく「シニアPM」へも適用できる内容となっています。

なお、法人スポンサー向けのPM部門長セミナーや法人スポンサー連絡会で検討内容を適宜発表していますが、2015年度は日本支部表彰/大賞を受賞しました。



2015年度 日本支部大賞受賞

法人スポンサー社員による活動

問題プロジェクト・スタディ・グループ

問題プロジェクトの予兆を如何にとらえるかについて継続し研究しました。具体的には第一フェーズで作成した予兆リストの枠組みを利用し、各社が直面した問題プロジェクトに当てはめ、予兆リストの有効性を共有すると同時に、新たな視点での活用範囲を探ることとしました。

メンバーが関わった問題プロジェクト事例を予兆ストーリーの枠組みで記述し、問題の予兆が何であったかを中心に定例会で議論し、早期把握との関連性を検討しました。同時にどのような追加情報が必要か、どのような情報があれば予兆がはっきり見えるか等を検討しノウハウを共有しました。

なお、本スタディ・グループは当初の目的を達成したため、2015年12月末をもって活動を終了しました。

成果物

1. 問題プロジェクト・スタディ・グループ クロージング報告
2. 予兆リスト
3. 予兆ストーリー
4. 予兆リスト、予兆ストーリー活用ガイド

第一線PM実践力強化スタディ・グループ

企業が抱える第一線PM実践力の強化について、情報交換により「明日から役立つ情報」を得ることを目的に活動しています。2015年度は、成果作成にこだわらず、各自が議論により気づきを得ることを重要視し、「歴史、格言が示すプロジェクトマネジメントの極意を議論し、気付きを得る」として検討を進めました。

書籍「兵法に学ぶ品質管理」(有延友克著)を元に、主に孫子やクラウゼヴィッツの格言から「プロジェクトマネジメントへの気づき」を見出すことを試みています。

これまでに、管理、計画、リスク、実践力等に関連する約40種の格言を取り上げ、どのような気づきを得ることができるかを抽出するとともに、その気づきを活かせるケース場面を各自のPM経験から想定し、どのような行動に帰着するかを議論しています。なお、議論に際してはPMCDF体系におけるコンピテンシー要素とのマッピングも意識していますが、それぞれの格言には、ノウハウ的な意味の勘所や極意までは含まれていないようです。



定例会にて

グローバルPMスタディ・グループ

グローバル新製品開発等におけるイノベーションを実行するためのプロジェクトマネジメント・アプローチを題材に、「Reinventing project management (Shenhar, A. J., & Dvir, D. (2007))」を輪読しています。2015年度は、先端研究と事例の認知度を高めることを目標に活動しました。

2015年度は、書籍「Reinventing project management」におけるNTCPアプローチを評価し、日本フォーラムや法人スポンサー連絡会で発表しました。また、「プロジェクトマネジメント・システム: プロジェクトマネジメントのオペレーション分野から戦略分野への移行」をはじめとした、グローバルプロジェクトマネジメント方法論に関するProject Management Journalの2つの論文を日本語訳し、日本支部会員向けにホームページのコラムで公開しました。

さらに、2013年度に輪読・評価していた書籍「グローバルプロジェクトチームのまとめ方 Martinelli, R.J., Rahschulte, T.J., & Waddell, J.M. (2010)」の著者に直接コンタクトし、交渉の末、翻訳出版に至りました。

Column

グローバルPMスタディー・グループ 安部和秀

一日働いた後、もうひとディスカッションするためにスタディー・グループ活動に直行するのは、新しいことへのチャレンジに前向きな人達と一緒にいるのが楽しいから。

プロジェクトマネジメントに関する書籍の輪読など、グループでの継続的な作業は自分のスキルアップ活動を後押ししてくれますし、視野の広がりを実感できます。そして明日は新しい視点に立った提案が出せるんじゃないかという気になります。今は、グローバルPMに関わる人が悩んだ時に「試しにやってみようか!」と思えるような施策を提案したいと思っています。

ホームページ

各種情報の発信

ホームページは、日本支部の活動を支える重要な媒体で、2015年は約4万件/月のアクセスがありました。

各種セミナーの告知・エントリー処理、書籍販売・決済、PMI本部発刊記事の翻訳記事の紹介、ニュースレターの掲載、海外コンgres出張やセミナーの開催時の結果報告、日本支部会員・法人スポンサー社員向け専用ページなど、さまざまな情報発信基地となっています。

注目度・閲覧数が多いことから、バナー設置による企業広告や関係団体のイベント告知にも活用いただいています。ターゲットを絞ってタイムリーな情報を提供するFacebookページと連携させ、会員をはじめとしたステークホルダーの方々に有効に活用いただいています。



ダウンロード・ツール

日本支部の各部会が成果品として作成したテンプレートを会員の方々が実務で活用いただけるよう公開し、ホームページを通して無料ダウンロードいただいています。テンプレートは、使用された方々からの意見を基に逐次ブラッシュアップを行っています。

2015年は、日本支部会員の方々に以下の①~③を、法人スポンサー社員の方々に③をご利用いただきました。

① PMBOK® 第5版対応 テンプレート集 (PMBOK® 委員会)

2億円程度の中規模ITプロジェクトのマネジメントを想定したテンプレート(37種類のテンプレートと9種類のテンプレート・ガイド)



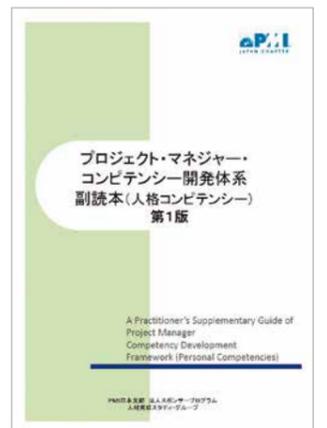
② リスク・マネジメント テンプレート (リスク・マネジメント研究会)

- ◆ リスクの発生確率影響度の定義
- ◆ リスク・マネジメント役割分担リスト
- ◆ リスク記述票
- ◆ リスク登録簿

No.	状況	リスク(要因・事象・影響)	リスクオー	特定日	定性リスク分析			計画	
					発生確率	影響度	リスクスコア		
1	◎	W社の見積りによる計画のため、生産が滞りかねない可能性があり、全体計画に遅延影響が発生する。	PM	3/1	3	4	12	H	3/2
2	◎	要求仕様書が文書表現のみであり、要求事項も不十分であるため、追加要求が収まらない可能性があり、コストオーバーの影響が発生する。	PM	3/1	3	4	12	H	3/2

③ PMCDF関係 (法人スポンサー 人材育成スタディ・グループ)

- ◆ PMCDF 副読本 第1版
- ◆ PMCDF 副読本 第1版 付録「人格コンピテンシー チェックシート」



ニュースレター

ニュースレターは、日本支部のイベント報告のほか、新規加入された法人スポンサー様の自社紹介、プロジェクトマネジメントの世界で顕著な活動をされている方からの投稿記事、その他ファクトデータ (PMI 関連有資格者数、日本支部会員数、法人スポンサー企業名、理事名簿 他) などを、pdf 雑誌形式で掲載しているもので、春夏秋冬の季刊となっています。

Festa で講演いただいた方の具体的講演内容や人となり、日本支部活動に貢献いただいた方のブレークスルー談など、ホームページでは表しきれない内容を網羅しています。



メールマガジン

日本支部のメールマガジンは、約1万人のPMP® 資格保持者 (日本支部からのメールマガジンの配信を承諾いただいた方)、約3,200人の日本支部会員の方々、110社を超える法人スポンサーの窓口ご担当の方に対して、情報を配信するサービスです。頻度は、それぞれ1回/月、2~3回/月、1回/月のペースとなっています。

各種セミナー開催、新刊書籍の割引販売、翻訳記事掲載などのさまざまな情報について、当該ホームページを参照いただくようご案内しています。

たとえば、「月例セミナーには当メールマガジンを受け取ったから参加した」という方が毎回半数おいでです。

日本支部会員、プロジェクト・マネジャー、法人スポンサーの方々にとって極めて重要な情報入手ツールとなっています。



Facebook

ソーシャルメディアによる情報発信源として Facebook ページを活用しています。

日本支部ウェブサイトに掲示された「お知らせ」など最新情報の展開だけでなく、PMI 本部や PMI Educational Foundation から発信される情報もご紹介しています。

2015年も利用者の皆さんの「いいね！」でプロジェクトマネジメントに興味をもたれている、より多くの方に最新情報をお届けすることができました。



出版書籍一覧

PMBOK® ガイド第5版ソフトウェア拡張版



著者：PMI
監訳：PMI 日本支部
発行：PMI 日本支部
発行年：2015年

組織的プロジェクトマネジメント成熟度モデル (OPM3®) 第3版



著者：PMI
監訳：PMI 日本支部
発行：PMI 日本支部
発行年：2015年

プログラムマネジメント標準第3版日本語版



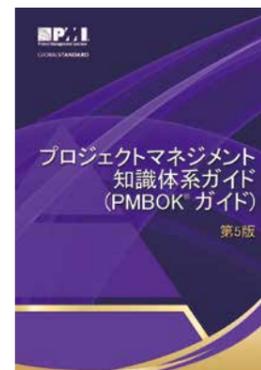
著者：PMI
監訳：PMI 日本支部
発行：PMI 日本支部
発行年：2014年

ポートフォリオマネジメント標準第3版日本語版



著者：PMI
監訳：PMI 日本支部
発行：PMI 日本支部
発行年：2014年

プロジェクトマネジメント知識体系ガイド (PMBOK® ガイド) 第5版日本語版



著者：PMI®
発行：PMI®
発行年：2013年

PMBOK セミナー副読本 PMBOK ガイド 第5版対応



著者：PMI 日本支部
発行：PMI 日本支部
発行年：2015年



- ・アード・バリュー・マネジメント実務標準第2版
- ・スケジュール実務標準 第2版
- ・プロジェクト見積り実務標準
- ・プロジェクト・コンフィギュレーション・マネジメント実務標準
- ・プロジェクト・リスク・マネジメント実務標準 増刷版
- ・PMBOK® ガイド第5版レファレンス
- ・PM ツールの実践的活用法 さまざまな課題に挑戦する PM たち
- ・戦略的 PMO ー新しいプロジェクトマネジメント経営ー

貸借対照表

平成27年12月31日現在
(単位：円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】	120,035,597	【流動負債】	36,095,419
現金及び預金	93,692,719	買掛金	7,929,453
売掛金	12,655,739	未払費用	4,486,408
商品	8,780,389	未払法人税等	4,103,700
貯蔵品	68,040	未払消費税等	1,056,700
前払費用	730,716	前受金	17,124,000
未収入金	4,077,994	預り金	1,165,608
仮払金	30,000	仮受金	229,550
【固定資産】	5,985,134	負債の部合計	36,095,419
【有形固定資産】	1,622,670	純資産の部	
建物附属設備	1,005,360	【株主資本】	89,925,312
工具器具備品	617,310	基金	55,000,000
【無形固定資産】	1,661,024	利益剰余金	34,925,312
電話加入権	37,600	その他利益剰余金	34,925,312
ソフトウェア	1,623,424	繰越利益剰余金	34,925,312
【投資その他の資産】	2,701,440	純資産の部合計	89,925,312
敷金	2,701,440	負債及び純資産合計	126,020,731
資産の部合計	126,020,731		

損益計算書

自 平成27年 1月 1日
至 平成27年12月31日
(単位：円)

科目	金額
【売上高】	
売上高	157,620,573
売上高合計	157,620,573
【売上原価】	
期首商品棚卸高	8,523,535
書籍関連原価	20,586,898
セミナー関連原価	31,122,821
サービス業務原価	4,548,345
その他原価	2,139,130
合計	66,920,729
期末商品棚卸高	8,780,389
売上原価	58,140,340
売上総利益金額	99,480,233
【販売費及び一般管理費】	
販売費及び一般管理費合計	75,513,277
営業利益金額	23,966,956
【営業外収益】	
受取利息	14,592
雑収入	94,180
営業外収益合計	108,772
経常利益金額	24,075,728
税引前当期純利益金額	24,075,728
法人税・住民税及び事業税	7,340,562
当期純利益金額	16,735,166

理事名簿

名前	役職	所属
奥澤 薫	会長	KOLABO 代表
片江 有利	副会長 企画担当	株式会社 プロシード 事業開発部長、シニアコンサルタント
端山 毅	ミッション担当	株式会社 NTTデータユニバーシティ 代表取締役社長
徳永 幹彦	マーケティング・会員担当	株式会社日立インフォメーションアカデミー サービス企画部主管コーディネータ
武上 弥尋	マーケティング・会員担当	日本アイ・ビー・エム株式会社 Associate Partner
当麻 哲哉	研究担当	慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 准教授
本間 利久	教育担当	北海道大学サステナビリティ学教育研究センター 名誉教授
中嶋 秀隆	教育担当	プラネット株式会社 代表取締役社長
杉村 宗泰	渉外担当	日本マイクロソフト 株式会社 エンタープライズサービス部門 SQA/PMO マネージャ
高橋 正憲	社会貢献担当	PM プロ 有限会社 代表取締役
麻生 重樹	社会貢献担当	日本電気 株式会社 金融システム開発本部 システム主幹
竹内 正興	広報・宣伝担当	一般財団法人 国際開発センター 理事長
三嶋 良武	財政担当	株式会社 三菱総合研究所 社会ICT事業本部 シニアITアーキテクト、兼 政府CIO補佐官(国交省担当)
神庭 弘年	地域担当	神庭 PM 研究所 代表
木下 雅裕	地域担当	ニッセイ情報テクノロジー株式会社 取締役常務執行役員
福本 伸昭	コンピテンシー担当	日本アイ・ビー・エム株式会社 グローバル・ビジネス・サービス 執行役員
除村 健俊	コンピテンシー担当	株式会社 リコー 理事、ビジネスソリューション事業本部 ビジネス開発センター所長
平石 謙治	監事	ビー・ティー・ジー・インタナショナル 代表
渡辺 善子	監事	株式会社 日本政策金融公庫 社外取締役



スポンサー一覧

法人スポンサー (114社)

(五十音順)

International Institute for Learning Japan K.K.
アイアンドエルソフトウェア株式会社
アイシック株式会社
株式会社アイ・ティ・イノベーション
株式会社アイ・ティー・ワン
株式会社アイテック
株式会社アイ・ラーニング
アクシスインターナショナル株式会社
アーケイディア・コンサルティング株式会社
Innova Solutions, Inc.
株式会社インテック
株式会社HGSTジャパン
株式会社エクス
SCSK 株式会社
NEC ネットソリューションズ株式会社
NEC ネットエスアイ株式会社
株式会社NSD
NCS&A 株式会社
株式会社NTT データ
株式会社NTTデータ アイ
株式会社NTTデータ関西
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ユニバーシティ
MS&AD システムズ株式会社
株式会社エル・ティー・エス
株式会社EnMan Corporation
株式会社エンラプト
株式会社大塚商会
株式会社オージス総研
キヤノンITソリューションズ株式会社
クインタイルズ・トランスナショナル・ジャパン株式会社
クオリカ株式会社
株式会社クレスコ
グローバル ナレッジ ネットワーク株式会社
Kepner-Tregoe Japan, LLC.
株式会社建設技術研究所
株式会社神戸製鋼所
コベルコシステム株式会社
コンピューターサイエンス株式会社
株式会社三技協
株式会社ジェー・エム・エー・システムズ
株式会社JSOL
JBCC 株式会社
株式会社シグマクシス
株式会社システムインテグレート
株式会社システム情報
システムスクエア株式会社
株式会社 シティアスコム
情報技術開発株式会社
新日鉄住金ソリューションズ株式会社
住友電工情報システム株式会社
ソニー株式会社
損保ジャパン日本興亜システムズ株式会社
TAC 株式会社
第一生命保険株式会社
株式会社タリアセンコンサルティング
千代田システムテクノロジー株式会社

TIS株式会社
TMIソリューションズ株式会社
TDCソフトウェアエンジニアリング株式会社
東芝インフォメーションシステムズ株式会社
東芝テック株式会社
株式会社東レシステムセンター
株式会社トヨタコミュニケーションシステム
株式会社TRADECREATE
日揮株式会社
ニッセイ情報テクノロジー株式会社
日本アイ・ビー・エム株式会社
日本アイ・ビー・エム・ビズインテック株式会社
株式会社日本ウィルテックソリューション
日本クイント株式会社
日本システムウェア株式会社
日本自動化開発株式会社
日本証券テクノロジー株式会社
日本情報通信株式会社
日本電気株式会社
日本電子計算株式会社
日本ビジネスシステムズ株式会社
日本ヒューレット・パッカード株式会社
日本プロセス株式会社
日本マイクロソフト株式会社
日本ユニカシステムズ株式会社
日本ユニシス株式会社
ニューソン株式会社
株式会社野村総合研究所
Hansoft 株式会社
ビジネステクノロジーラフツ株式会社
日立INSソフトウェア株式会社
株式会社日立インフォメーションアカデミー
株式会社 日立産業制御ソリューションズ
株式会社 日立システムズ
株式会社日立製作所
株式会社日立ソリューションズ
日立物流ソフトウェア株式会社
富士ゼロックス株式会社
株式会社富士ゼロックス総合教育研究所
富士電機株式会社
プライスウォーターハウスクーパース株式会社
プラネット株式会社
株式会社プロシード
PMアソシエイツ株式会社
株式会社マネジメントソリューションズ
三菱スペース・ソフトウェア株式会社
三菱総研DCS株式会社
株式会社三菱総合研究所
三菱電機株式会社
ラ・ニング・ツリー・インターナショナル株式会社
株式会社ラック
株式会社RINET
株式会社リクルートテクノロジー
株式会社リコー
リコーITソリューションズ株式会社
リコージャパン株式会社
株式会社ワコム

アカデミック・スポンサー (33組織)

(五十音順)

青山学院大学 国際マネジメント研究科
愛媛大学工学部および大学院理工学研究科工学系
大阪大学 大学院工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻
大阪府立大学 21世紀科学研究機構 産学協同高度人材育成センター
鹿児島大学産学官連携推進センター
金沢工業大学
川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部 医療秘書学科および大学院医療秘書学専攻
九州大学大学院芸術工学府デザインストラテジー専攻
京都光華女子大学
京都工芸繊維大学 ものづくり教育研究支援センター
慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科
慶應義塾大学・理工学部・管理工学科・飯島研究室
サイバー大学
産業技術大学院大学
芝浦工業大学
就実大学 経営学部 経営学科
国立高等専門学校機構 仙台高等専門学校
千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科
中央大学 文学部 社会情報学専攻
学校法人 中部大学 経営情報学部
筑波大学大学院システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻
東京工科大学 大学院 コンピュータサイエンス専攻
公立大学法人公立はこだて未来大学
国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校
広島修道大学経済科学部
公立大学法人 広島市立大学 情報科学部
北海道情報大学
北海道大学サステイナビリティ学教育研究センター
北海道大学 大学院情報科学研究科
山口大学工学部知能情報工学科
山口大学大学院技術経営研究科
早稲田大学ビジネススクール
早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科

行政スポンサー

三重県桑名市

2015年12月31日現在

商標等について

「PMI」とPMIのロゴ、「PMP」、「PMBOK」、「PgMP」、「Project Management Journal」、「PM Network」、「PMI Today」および「OPM3」は、Project Management Institute Inc., (以下PMI Inc.) の登録商標です。